



2022年度（令和4年度）

事業報告

社会福祉法人豊中きらら福祉会



中長期経営計画 基本工程表(平成28年度～令和7年度)

私たちは、地域の人々と共同し、民主的で開かれた経営、運営を目指します

| 項目 | 内容 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 平成31年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 実施機関 |
|----------------|------------------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------------|
| 本部機能の強化 | 組織体制の整備 | | | | | | | | | | | 中長期・事務局 |
| 福利厚生の充実 | 働きやすい職場環境づくり | | | | | | | | | | | 中長期・事務局・組合 |
| | メンタルヘルス窓口の設置 | | | | | | | | | | | メンタルヘルス委員 |
| | ハラスメント窓口の設置 | | | | | | | | | | | ハラスメント防止委員会 |
| | ストレスチェックの実施 | | | | | | | | | | | メンタルヘルス委員 |
| 地域貢献活動の取り組み | 地域貢献の定義～実践 | | | | | | | | | | | 中長期・事務局 |
| 緊急時の安定的な運営 | BCP(事業継続計画)の作成 | | | | | | | | | | | 災害対策・事務局 |
| 災害対策の検討・強化 | 災害対策マニュアル等の整備 | | | | | | | | | | | |
| | 災害時に向けての準備・対策 | | | | | | | | | | | |
| 新型コロナウイルス対策の強化 | リモート会議の導入・手順作成 | | | | | | | | | | | |
| | 感染対策職員行動マニュアル作成 | | | | | | | | | | | |
| | PCR検査シミュレーションの実施 | | | | | | | | | | | 災害対策委員会 |

BCPは、災害時の初動対応を作成中のため、今年度は回覧できなかった。複合災害に向けた対策も必要となるため、今後も見直しや追加も含め作成を継続していく。引き続き作成が必要な項目のため、区切りができしだい回覧予定。

災害用備品として、【防災セット】【防災ラジオ】を購入

私たちは、障害のある人たちが必要な時に必要な制度が利用できるよう、働く場だけではなく生活の場など、地域に開かれた社会資源づくりをすすめます。

| 項目 | 内容 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 平成31年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 実施機関 |
|----------------|------------------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|---------|---------|
| 計画的な人材の確保 | 人事担当の設置 | | | | | | | | | | | 事務局 |
| 開かれた社会資源づくりの推進 | 教育機関との連携 | | | | | | | | | | | 事務局 |
| | クレヨンの移転拡張 | | | | | | | | | | | 事務局 |
| | 工房モコの移転拡張 | | | | | | | | | | | 事務局 |
| | 工房「羅針盤」の老朽化 | | | | | | | | | | | 事務局 |
| | 第2工房「羅針盤」土地建物の購入 | | | | | | | | | | | 事務局 |
| | ひだまりの家・きららの家開設 | | | | | | | | | | | 暮らしの場 |
| | 新規グループホームの開設 | | | | | | | | | | | 暮らしの場 |
| | 新規作業所の設立 | | | | | | | | | | | 中長期・事務局 |
| 誰もが利用できる作業所づくり | | | | | | | | | | | 中長期・事務局 | |

今年度は、人事交流と職員全体会議を実施できていないが、職員研修では、全職員が参画して開催することができた。コロナも取戻の進みが見えているので、現状に即した形式での開催を検討していかねばならない。

工房モコの移転拡張：物件検討中
工房「羅針盤」の老朽化：物件検討中

今年度から新人研修に「法人理念」研修を追加。より深い理解で理念を理解し、実践ができる職員の育成を目指す。

私たちは、障害のある人のニーズや主体性、可能性を尊重した実践を目指します

| 項目 | 内容 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 平成31年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 実施機関 |
|-----------|--------------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|---------|
| 理念に基づいた実践 | 理念に基づいた総括の実施 | | | | | | | | | | | 研修委員会 |
| 支援の統一性の確保 | 理念に基づいた研修の開催 | | | | | | | | | | | 事務局 |
| | 支援関係書類の整理・統一 | | | | | | | | | | | 虐待防止委員会 |
| 給食事業の安定化 | 栄養士の常勤配置 | | | | | | | | | | | 事務局 |
| 職員の連携強化 | セントラルキッチン構想 | | | | | | | | | | | 事務局・中長期 |
| | 人事異動・交流の実施 | | | | | | | | | | | 事務局 |
| 実践研修の充実 | 職員会議での意見交換 | | | | | | | | | | | 全職員 |
| | 職員研修として1年間実施 | | | | | | | | | | | 研修委員会 |

令和3年度報酬改定に盛り込まれた「障害者虐待防止の更なる推進」と「身体拘束等の適正化の推進」を基に研修を実施。今後毎年1回の実施を継続予定。

各事業所・家族と連携し、利用者の地域生活をサポート。今年度から「千葉県障害者相談支援センター」として豊中市北東部エリアの基幹業務・相談支援業務を委託。

私たちは、障害のある人たちに対する、いかなる差別、虐待、人権侵害も許さず、人としての権利を擁護します

| 項目 | 内容 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 平成31年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 実施機関 |
|--------------------|--------------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|---------|
| 権利擁護の推進 | 虐待チェックリストの実施 | | | | | | | | | | | 虐待防止委員会 |
| 相談支援専門員の拡充 | 利用者の処遇改善 | | | | | | | | | | | 事務局 |
| 人権研修の実施 | 職員研修として年1回実施 | | | | | | | | | | | 虐待防止委員会 |
| 虐待防止研修の実施 | | | | | | | | | | | | 虐待防止委員会 |
| 身体拘束等の適正化のための研修の実施 | 職員研修として年1回実施 | | | | | | | | | | | 虐待防止委員会 |

私たちは、障害のある人が安心して暮らせる街づくりを、地域の人々と共同し、障害者運動を発展させながらすすめていきます。

| 項目 | 内容 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 平成31年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 実施機関 |
|--------------|-------------------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----------|
| 30周年設立記念事業 | 法人合併とクレヨン開所式 | | | | | | | | | | | 事務局 |
| 啓発活動の推進 | コンサート、映画会、法人バザー等 | | | | | | | | | | | 事務局、実行委員会 |
| 啓発活動向上委員会の設置 | 事業部の名称変更 | | | | | | | | | | | 啓発活動向上委員会 |
| 広報・販売活動の充実 | 機関紙・SNS等での広報活動の推進 | | | | | | | | | | | 啓発活動向上委員会 |
| | 自主製品カタログの作成・配布 | | | | | | | | | | | 啓発活動向上委員会 |

Facebookを更新して各事業所の紹介をおこなうとともに、機関紙にFacebookや通年カタログのQRコードや紹介文を掲載した。事業所によっては、その他SNSの利用も開始している。今後も地域への発信を継続し、啓発活動へとつなげていく。

自主製品の通年カタログでの販売を継続している。今年度は、豊中市や隣接する他市にも配布をおこなった。今後もカタログを有効活用し、販売促進と啓発活動につなげていく。

私たちは、障害のある人たち一人ひとりが豊かな生活を実感し、充実した人生が送れるよう、自らの専門的役割と使命を自覚し、絶えず研鑽を重ねます

| 項目 | 内容 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 平成31年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 実施機関 |
|--------------|--------------------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----------|
| 法人の歴史と障害者運動 | 職員研修として1年間実施 | | | | | | | | | | | 研修委員会 |
| 新人基礎研修の充実 | 3年間の新人基礎研修を実施 | | | | | | | | | | | 研修委員会・事務局 |
| 人材育成プログラムの整備 | 経験年数・役割別研修の実施 | | | | | | | | | | | 研修委員会・事務局 |
| 情勢学習の実施 | 職員研修として年1回実施 | | | | | | | | | | | 研修委員会 |
| 学びの場の確保 | オンライン(オンデマンド)研修の参加 | | | | | | | | | | | 研修委員会 |

オンラインでの研修も定数となり、学びの場を確保しやすくなっている。加えて、今年度は、対面での新人研修と全体研修を開催することもできた。コロナも取戻の進みが見えているので、新たな形式も検討しながら研鑽を重ねなければならない。

私たちは、基本的人権が尊重される戦争のない恒久平和の実現と民主的な社会の発展を目指します

| 項目 | 内容 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 平成31年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 実施機関 |
|---------|--------------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------------|
| 平和学習の実施 | 職員研修として年1回実施 | | | | | | | | | | | 研修委員会・9条の会 |

達成項目 未達成または継続項目 新しい項目

法人全体総括

はじめに

2022年を迎えるとともに新型コロナの第6波の感染拡大に加え、国際社会では、ロシアによる武力による一方的なウクライナ侵攻という、領土拡張の野心のために国連憲章と国際法を幾重にも踏みにじる大国主義・覇権主義の暴挙が始まった。さらに7月には、安倍元首相が参院選の応援演説中に銃撃され命を落とすというショッキングな事件も起きた。その後、犯行動機と関連がある旧統一教会と政治家との深い関係が明らかとなり、政治と宗教のあり方、反社会的勢力との問題、そして、被害者の救済が国会でも大きく取り上げられた。

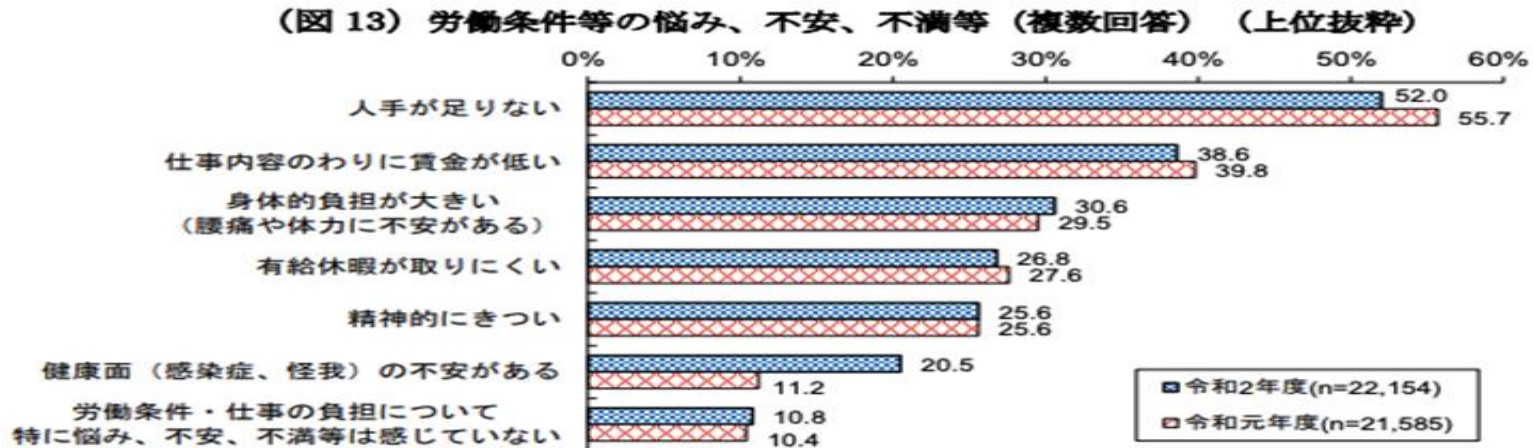
新型コロナでは、感染拡大防止策として各地で講じられていた「まん延防止等重点措置」が3月に全面解除となった。それ以降、大型連休や夏休みなどの行楽シーズンでは、3年ぶりに行動制限が解除され、各地の行楽の様子が報じられることも多くなった。法人内のイベントやお祭りなども少しずつ再開されつつも、その一方で、第6波・第7波での死者はそれぞれ12,000人規模であり、過去の感染流行期よりも多く、第8波の被害が懸念される状況でまだまだ予断を許さない。

ウクライナ侵攻と政情不安、急速な円高の中、国民は値上げラッシュにさらされる一方、名目賃金が30年間以上も増えておらず国民生活は深刻な困窮状態に陥っている。また、防衛政策の見直しによって地政学リスクを過度に意識させ、GDP2%の防衛費増額による大軍拡の一方で、国民への大増税による心理的・経済的不安が多い一年となった。

人材確保と育成・定着に向けた取り組み

全国的にも福祉従事者の人材確保が困難と言われている状況の中、当法人では、今年度、新卒者6名の内定を決定することができた。しかし、年度途中の退職者に関して、職員の補填はできたもののタイムラグが生じたため、その期間は在勤職員への大きな負担となってしまった。新たな職員の確保と同時に、職員が安心して働くことができる定着のための環境整備が課題であることが浮き彫りとなった。

下図の「令和2年度介護労働調査」によると、介護労働者の業務に関する悩みとして、人手不足のほかにも労働環境が整っていないことが挙げられる。



自分たちの仕事を改めて考える

当法人の前身である「豊中障害者共同作業所」が誕生したのは1986年。利用者7名とボランティア3名でスタートしたのは37年前、現在は、日中活動事業所6ヶ所、グループホーム4ヶ所、相談支援センターとヘルパーステーションが各1ヶ所、利用者の数は300名、職員数は170名を超える社会福祉法人となった。37年前から現在に至るまで、障害者運動によって福祉制度が少しずつ変わり、2003年4月の「支援費制度」の導入により、従来の「措置制度」から大きく転換され、2005年11月に「障害者自立支援法」が公布、2011年障害者総合支援法の骨格提言ができ、2014年に障害者権利条約が批准され、昨年9月には、国連障害者権利委員会から日本への「総括所見」が出された。

私たちは、開設当初から障害のある人たちが必要な時に必要な制度が利用できるよう、働く場だけでなく生活の場など、地域に開かれた社会資源づくりを目指して取り組んできた。これまで実践活動に間違いはなかったのか、また今できることを十分におこなえてきたのか、法人の理念はもちろんのこと、障害者権利条約を全職員が理解し、これまでの活動と照らし合わせ総括し、新たな課題を探求し、さらなる目標に向かって進んでいくための学びと運動が必要となる。

BCPへの取り組み

2022年12月、大阪府内の新型コロナ感染者は15,000人以上と爆発的に広がり、法人内の各事業所でも多数の感染があったが、現場の職員の努力によりクラスターが発生するような大きな感染は起こらなかった。なお、感染によって各事業所の職員体制に影響を受けたため、事業所間で職員の応援や派遣をするなど、利用者を安全に受け入れることができる体制を整えた。特にグループホームでは、一人でも陽性者が確認された場合、キーパー職員が勤務から外れることから、その補填はホーム管理者はじめ担当者が連日泊まり込みで勤務をしなければならず、大きな課題となった。感染リスクを抱えての長期連続勤務は、心身に多大な負担となるため、当面の間、各事業所から1名以上のホーム兼務職員を配置して応援体制を強化するが、さらなるホーム担当職員の育成や増員に引き続き取り組んでいく。

来年度について

ここ数年、利用者や家族の高齢化に伴う安心した地域生活の場づくりが課題となっているが、事業所の中には、建物の老朽化や新たな利用者を受け入れるスペースがなく、移転拡張が急務となっている。2016年度に当法人の中長期計画が作成されてから8年目となる。この間、社会福祉法人萌を吸収合併し、クレヨンの事業を継承した後に移転拡張もした。その後、女性専用グループホーム「ひだまりの家」を開所、それに続いて法人本部が、相談支援センターとグループホームの機能を兼ね備えた新たな拠点として新千里南町に移転した。

国は、第6期障害者福祉計画の基本方針において、「地域のあらゆる住民が『支え手』と『受け手』に分かれるのではなく、地域住民が主体的に取り組む地域共生社会を推進する」としている。暮らしの場の保障は人権保障の原点であり、住民同士の助け合いではなく、公的責任として社会保障・社会福祉の充実を求めなければならない。行政にとって都合の良い「自助・互助・共助」の促進に流されることなく、各分野と連携して今後も障害者のいのちと豊かな暮らしを守り支える活動を進めていく。

2022年度（令和4年度） 社会福祉法人豊中きらら福祉会 各事業所 事業報告書

種別 障害福祉サービス【生活介護型（定員14名）・就労継続支援B型（定員23名）】
 実施施設 名称 ワークセンターとよなか
 所在地 〒561-0858 大阪府豊中市服部西町5-18-5

実施期間 2022年（令和4年）4月1日～2023年（令和5年）3月31日 開所日数 249 日

| 従業者 | 管理者 | 管理責任者 | 生活支援員 | 就労支援員 | 看護職員 | 栄養士 | 調理員 | 事務職員 | 運転手 | 機能訓練・マツサージ | 嘱託医 | 顧問弁護士 | 顧問社労士 | 業務委託 税理士 | 合計（常勤 換算人数） | 年間行事 | ※定例開催（月1回：調理実習・ハンドマッサージ・エステ） | | |
|---------|----------|-------|-------|-------|----------|-----|-----|------|-----|------------|-----|-------|-------|-------------|----------------|------|------------------------------|---------|---------|
| | 正規 | 1 | 1(兼) | 6 | 3 | | | | | | | | | | | 9 | 4月 | 入所式（所内） | |
| | 非正規 | | | 7 | 1 | 1 | | | | | 1 | | | | | 4.6 | 5月 | 避難訓練 | |
| | ボランティア等 | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 6月 | | |
| | （内障害者雇用） | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 7月 | 健康診断 | |
| | 計 | 1 | 0 | 13 | 4 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 13.6 | 8月 | 避難訓練 | |
| 職員入退職状況 | | | | | 新規採用者 6名 | | | | | 退職者 7名 | | | | | 9月 | | | | |
| 利用者 | 身体 | 知的 | 精神 | 計 | うち重複 | | | 認定区分 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 未判定 | 計 | 10月 | 11月 | |
| | | | | | 身・知 | 知・精 | 精・身 | | | | | | | | | | 12月 | | |
| | 男 | 2 | 28 | 4 | 34 | 8 | 1 | | 0 | 1 | 11 | 8 | 7 | 4 | 0 | 3 | 34 | 1月 | 永年勤続表彰式 |
| | 女 | 2 | 6 | 2 | 10 | 2 | 0 | | 0 | 2 | 1 | 4 | 2 | 0 | 0 | 1 | 10 | 2月 | |
| | 計 | 4 | 34 | 6 | 44 | 10 | 1 | | 0 | 3 | 12 | 12 | 9 | 4 | 0 | 4 | 44 | 3月 | |
| | 平均年齢 | | 49.0 | | 才 | | | | | | | | | | | | | | |

| 授産活動報告 | 授産内容 | | | 利用者数(人) | 職員数(人) | 売上額(円) | 利用者一人当たり 平均工賃(月額) | 受注開始年月日 |
|--------|-----------------------------|--|--|---------|-----------|-----------|----------------------|-----------|
| | 内職事業（生活介護） | | | 16 | 6 | 766,927 | 5,175 | 平成28年4月1日 |
| | 自主製品製造販売：陶芸（生活介護） | | | | 5 | 802,440 | | 平成28年4月1日 |
| | 外部委託事業（就労継続支援B型） | | | 28 | 3 | 1,621,622 | 6,263 | 平成11年4月1日 |
| | 自主製品製造販売：プリント／紙製品（就労継続支援B型） | | | | | 342,567 | | 平成28年4月1日 |
| | ダンボール組立事業（就労継続支援B型） | | | | | 767,260 | | 平成11年4月1日 |
| | その他 | | | | | 203,530 | | |
| | | | | 計 | 4,504,346 | | | |

ワークセンターとよなか

基本目標及び計画

総括

①実践の充実<生活/労働/健康管理/環境など>

文責：岡坂 親宏・岩田 功二・河田 善次

(1) 昨年度に引き続き、新しいことにチャレンジしていくための雰囲気づくりやスモールステップを積み重ね、自己肯定感を高めていける環境づくりをおこなう。
 (2) 授産品や利用者の作品の知名度向上を図り、新たな授産活動にも参加できるよう心がけていく。
 (3) 整理整頓された環境の維持、感染対策を意識したフロアづくりをおこない、安心して通所できる場所を提供する。

(1) 新しい内職に取り組む際、障害特性に応じて作業工程の分業化をおこなった上、可能な利用者には同一行程ばかりではなく、次の工程に移行してもらうなど、スモールステップにつなげることも意識的に促し、利用者の達成感につなげることができた。
 (2) 新型コロナウイルスの自粛が緩和し、授産品の販売できるイベントに参加することができた。また、アート作品の展示会もおこなうことができ、作品の知名度向上を図ることができた。新たな授産活動の一環として、他作業所とのコラボ商品でスタンプを商品化することができた。今後は、既存の陶芸の工程に利用者がこれまで以上に携わっていけるように支援していく。
 (3) 整理整頓された環境の維持は、日々の作業終了時に利用者とともにフロア内を掃除することを継続しておこなってきた。パーテーションの設置や定期的なフロア内の消毒をおこない、感染対策もおこなってきた。また、新しく内職作業が加わったことで作業動線を考えたり、利用者間の相性などを考慮したフロアづくりをしてきた。今後も安心して通所してもらえらる柔軟なフロアづくりをしていきたい。

②権利保障<権利擁護/事故報告書/ひやりハット報告書/苦情・相談報告書など>

文責：岩田 功二

(1) 事故を未然に防ぐ、気づきによる報告を増やしていく。また、報告書の意義を再確認し、利用者の権利を守っていく。
 (2) 日々の様子や会話などから利用者の困り事を知り、早い段階で解決できるようにしていく。必要に応じて関係機関とも連携をしていく。
 (3) なかまの会などから発せられた利用者のニーズを受け止め、今年度も利用者主体の運営を進めていく。

(1) 事故を未然に防ぐ気づきのひやり報告が数件出されていた。しかし、確認不足による報告も目立っていた。その都度、抽象的な対策ではなく具体的な対策を考えてきたので、次年度以降に生かされてくると思われる。引き続き気づきの視点を大切にして、利用者の権利を守っていく。
 (2) 生活環境や加齢によるものと思われる気持ちの変化などを、担当職員だけではなくワーク全体として考えて話し合うこともあった。今後ご家族や関係機関とも連携をおこない、利用者にとっての最善を考えていく。
 (3) 工賃アップの要望があり、キラキラ会やなかまの会で話し合いをおこない、実際に工賃アップにつなげることができた。また、なかまの会では、ワークから発信されているFacebookやInstagramの情報を共有し、利用者間で一体感を感じることができた。次年度も利用者主体の運営を進めていく。

③専門性の向上と人材育成

文責：熊谷 隆

(1) チームアプローチを意識し、支援の向上を図る。
 (2) 研修や学習する機会を設け、専門性を高めていく。そして、思いを言語化し、伝える力を身につけてコミュニケーションをとり、情報共有していく。

(1) 一人で解決しようとせずに職員連携も大切にしなが、障害特性や環境面についてディスカッションができた一年であった。聞くだけではなく話す機会を設けることで、コミュニケーションをとることができた。引き続き研修や学習する機会を設け、支援の向上に努める。
 (2) 負担が偏らないように、若手から非常勤まで話しやすい場を作っけていき、情報共有することができた。コロナ禍における一年であったので、外部研修に参加できなかったが、オンライン研修へ参加し、学習する機会を設けることができた。

ワークセンターとよなか

基本目標及び計画

総括

④事業展開の実施・民主的経営

文責：熊谷 隆

- (1) 安心して通所できるよう、引き続き感染症対策を徹底する。
- (2) 被保護者就労準備支援事業を継続し、生活困窮者の実習受け入れ先として、市と連携していく。
- (3) 築いてきた地域との「つながり」を大切にする。

- (1) 手洗いやアルコール消毒などの対策を徹底したことで、集団感染もなく開所することができた。
- (2) 22年度は、10名の新規実習生が職業訓練として来られた。その内、4名が次のステージに向けて卒業していった。
- (3) ご近所での清掃などで地域と顔の見える関係づくりは継続できた。近隣住民からの大きな苦情もなく、地域の一員として馴染んできている。

⑤障害者運動の推進・恒久平和への取り組み

文責：河田 善次

- (1) 障害福祉についての制度拡充を求めるための運動に取り組む。
- (2) 障害者・ご家族・関係者の願いに沿った行政を実現するための運動に取り組む。

- (1) きょうされん国会請願署名に取り組む。今年度も新型コロナウイルス感染防止のため、街頭署名活動はおこなわず、各自で取り組むことにした。
- (2) 大阪府知事に要望書の署名をおこない、障害者・ご家族の困り事や願いを文書で届けた。

2022年度（令和4年度） ワークセンターとよなか 利用状況

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|-----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-----------|
| 生活介護 | 生介I | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 平均 利用者 |
| | 定員 | 14 | 14 | 14 | 14 | 14 | 14 | 14 | 14 | 14 | 14 | 14 | 14 | 14 | |
| | 区分2 | | | | | | | | | | | | | 0 | 12.6 |
| | 区分3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | 区分4 | 54 | 41 | 43 | 43 | 48 | 31 | 31 | 42 | 42 | 41 | 41 | 51 | 508 | |
| | 区分5 | 174 | 166 | 195 | 181 | 191 | 161 | 161 | 165 | 160 | 149 | 148 | 173 | 2,024 | |
| | 区分6 | 38 | 35 | 36 | 33 | 42 | 58 | 60 | 61 | 54 | 54 | 55 | 65 | 591 | |
| | 合計 | 266 | 242 | 274 | 257 | 281 | 250 | 252 | 268 | 256 | 244 | 244 | 289 | 3,123 | |
| | 区分5・6 (%) | 80% | 83% | 84% | 83% | 83% | 88% | 88% | 84% | 84% | 83% | 83% | 82% | 84% | |
| | 利用率 (%) | 91% | 91% | 89% | 92% | 92% | 90% | 86% | 80% | 92% | 92% | 92% | 94% | 90% | |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-----------|
| 就労継続 支援B型 | 就B I | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 平均 利用者 |
| | 定員 | 23 | 23 | 23 | 23 | 23 | 23 | 23 | 23 | 23 | 23 | 23 | 23 | 23 | |
| | 未判定 | 65 | 59 | 69 | 64 | 72 | 76 | 74 | 83 | 77 | 64 | 73 | 77 | 853 | 21.2 |
| | 区分1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | 区分2 | 103 | 97 | 106 | 82 | 112 | 100 | 85 | 89 | 86 | 80 | 77 | 77 | 1,094 | |
| | 区分3 | 68 | 72 | 80 | 63 | 63 | 63 | 76 | 84 | 78 | 79 | 72 | 81 | 879 | |
| | 区分4 | 171 | 160 | 164 | 152 | 176 | 161 | 169 | 152 | 146 | 158 | 156 | 189 | 1,954 | |
| | 区分5 | 40 | 37 | 44 | 39 | 44 | 40 | 40 | 39 | 40 | 37 | 38 | 44 | 482 | |
| | 区分6 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | 合計 | 447 | 425 | 463 | 400 | 467 | 440 | 444 | 447 | 427 | 418 | 416 | 468 | 5,262 | |
| 利用率 (%) | 93% | 98% | 92% | 87% | 93% | 96% | 92% | 81% | 93% | 96% | 96% | 93% | 92% | | |

| | | | | | | | | | | | | | |
|---------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
| 開所日（生介） | 21 | 19 | 22 | 20 | 22 | 20 | 21 | 24 | 20 | 19 | 19 | 22 | 249 |
| 開所日（就B） | 21 | 19 | 22 | 20 | 22 | 20 | 21 | 24 | 20 | 19 | 19 | 22 | 249 |

2022年度（令和4年度） 社会福祉法人豊中きらら福祉会 各事業所 事業計画書

種別 障害福祉サービス【生活介護型（定員20名）・就労継続支援B型（定員20名）】
 実施施設 名称 工房「羅針盤」
 所在地 〒560-0052 大阪府豊中市春日町3-1-41

実施期間 2022年（令和4年）4月1日～2023年（令和5年）3月31日 開所日数 243 日

| 従業者 | 管理 者 | 管理 責任 者 | サ ー ビ ス | 生 活 支 援 員 | 就 労 支 援 員 | 看 護 職 員 | 栄 養 士 | 調 理 員 | 目 標 工 賃 達 成 指 導 員 | 運 転 手 | 言 語 聴 覚 士 | 嘱 託 医 | 顧 問 弁 護 士 | 顧 問 社 労 士 | 業 務 委 託 税 理 士 | 合 計 （ 常 勤 人 数 ） | 年 間 行 事 | ※定例開催： | |
|---------|------------|---------------|------------------|-----------------------|-----------------------|------------------|-------------|------------------|---|-------------|-----------------------|------------------|-----------------------|-----------------------|---------------------------------|--------------------------------------|------------------|--------------|--------|
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 正 規 |
| | 1 | 1(兼) | | 8 | 2 | | | | 1 | | | | | | | 12 | 4月 | 誕生日会 | |
| | | | | 4 | | 1 | | | | 4 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 5.9 | 5月 | 誕生日会 | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 6月 | 誕生日会 | |
| | | | | 1 | | | | | | | | | | | | 0.4 | 7月 | 誕生日会・昼食づくり再開 | |
| | 1 | 1(兼) | | 13 | 2 | 1 | 0 | 0 | 1 | 4 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 18.3 | 8月 | 誕生日会 | |
| 職員入退職状況 | | | | | | 新規採用者 1 名 | | | | | 退職者 1 名 | | | | | 9月 | 誕生日会 | | |
| 利用者 | 身 体 | 知 的 | 精 神 | 計 | うち重複 | | | 認 定 区 分 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 未 判 定 | 計 | 10月 | 誕生日会 | |
| | | | | | 身・知 | 知・精 | 精・身 | | | | | | | | | | 11月 | 誕生日会 | |
| | | | | | 0 | 0 | 16 | | | | | | | | | | 12月 | 誕生日会 | |
| | 男 | 20 | 1 | 25 | 46 | 0 | 0 | | 16 | 10 | 9 | 5 | 1 | 0 | 0 | 21 | 46 | 1月 | 誕生日会 |
| | 女 | 5 | 2 | 7 | 14 | 0 | 0 | | 5 | 3 | 3 | 2 | 2 | 0 | 0 | 4 | 14 | 2月 | 誕生日会 |
| | 計 | 25 | 3 | 32 | 60 | 0 | 0 | | 21 | 13 | 12 | 7 | 3 | 0 | 0 | 25 | 60 | 3月 | 誕生日会 |
| 平均年齢 | | 52.1 | | 才 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授産活動報告 | 授産内容 | | | | | | | | 利用者数(人) | 職員数(人) | 売上額(円) | 利用者一人当たり平均工賃(月額) | 受注開始年月日 | | | | | | |
| | ガラスアート事業収入 | | | | | | | | 8 | 3 | 322,307 | 5,990円 | 2006年（平成18年）4月1日 | | | | | | |
| | 内職事業収入 | | | | | | | | 28 | 3 | 1,403,125 | 5,990円 | 1998年（平成10年）4月1日 | | | | | | |
| | 製菓販売収入 | | | | | | | | 8 | 2 | 782,873 | 5,990円 | 1998年（平成10年）4月1日 | | | | | | |
| | マット・ミサンガ | | | | | | | | 8 | 2 | 437,555 | 5,990円 | 2006年（平成18年）4月1日 | | | | | | |
| | アロマキャンドル | | | | | | | | 8 | 2 | 43,280 | 5,990円 | 2006年（平成18年）4月1日 | | | | | | |
| | | | | | | | | | 計 | 2,989,140 | | | | | | | | | |

工房「羅針盤」

基本目標及び計画

総括

①実践の充実<生活/労働/健康管理/環境など>

文責：池川 辰哉・喜來 順司

(1) 利用者が主体的に活躍し、「来て良かった」と感じることでできる空間づくりを職員一同努めていく。
(2) コロナの影響があり、営業活動ができない状態にあるため、内職作業の請負数を増やしていく。また、SNSを活用し工芸などの商品受注につなげていき、工賃向上に努める。
(3) 感染症対策を徹底しておこなう。利用者や職員の健康維持・管理に努め、必要に応じて関係機関と連携する。
(4) 各自主製品に関わる設備が老朽化してきている。助成金などを活用し、利用者の職場環境の維持向上に努める。

(1) 感染症対策を継続しながら、営業や納品などの外出に利用者で行くことができた。実際にお客様や業者様と触れ合うことで、「楽しい」「もっと頑張りたい」とやりがいにもつながっている。来年度も感染症対策を継続しながら、よりやりがいの持てる環境を整備する。
(2) コロナの影響もあったが、今年度は、インスタグラムの活用やデザインワークショップ研修に参加して、冬季物品のチラシを新調し、商品受注につながるよう取り組んだ。内職作業の請負数も増え、利用者の作業スキルも向上し、工賃向上につながった。
(3) 継続して開所することができていたが、1月頃から利用者・職員にも陽性者が出ている。クラスターになることなく終息しているので、今後も感染症対策を継続していき、安心して通うことができるよう努めていかなくてはならない。
(4) 今年度は設備の老朽化改善のため、送迎車1台と製菓は豊中市からの助成金でオープンを1台購入し、利用者の職場環境の向上につながった。

②権利保障<権利擁護/事故報告書/ひやりハット報告書/苦情・相談報告書など>

文責：田中 悠也

(1) 日々の振り返りをおこない、相談しやすい環境をつくる。
(2) 事故報告書やひやりハットを分析し、再発防止に努める。
(3) 3ヶ月に1回、虐待防止チェックをおこなう。

(1) 今年度も継続して各フロアで毎日定時に振り返りをおこない、支援方法について相談し、利用者に対する理解を深めることができた。非常勤ミーティングも毎週継続しておこなうことで、情報共有ができ、より良い支援につながっている。
(2) 報告書の作成は迅速におこなわれたが、ひやりハットの件数が減少しており、事故を未然に防ぐ情報になるものという意識の低下が見受けられた。加えて、今年度は車両事故が増加している。原因の分析をおこない、減少させていかなくてはならない。
(3) 定期的に虐待防止チェックをおこなうことで、言葉づかいや不適切な支援はなかったかなどの振り返りになり、支援を見つめ直す機会になった。

③専門性の向上と人材育成

文責：大神 彰規・原田 航

(1) 受けるべき研修を見極め、学ぶだけでなく伝えることにも重点を置き、集団で共有することで全体のスキルアップにつなげる。
(2) 会議が有意義な場ができるよう、一人ひとりが積極的に発言する意識を高める。
(3) 集団として協力しながら職員の育成に努め、組織力を向上させる。

(1) コロナ禍のため、研修の参加が例年より少なくなった。所内にて、てんかん時の対応や嚥下の学習などにより、実践につながる研修を実施し、職員のスキルアップにつなげた。
(2) 会議中に意見確認をおこなうなど、個々の発言を促すことで一人ひとりの発言が増えてきている。今後もそれぞれの考えを共有しながら、有意義な会議になるよう取り組んでいきたい。
(3) 日頃のミーティングで支援方法を相談し、意見を言い合える環境を常に意識することで、組織力の向上を図った。

工房「羅針盤」

基本目標及び計画

総括

④事業展開の実施・民主的経営

文責：山河 正裕

(1) 利用者・職員などの職場環境を整備しながらバリアフリー化を進めると同時に、新たな利用希望者の受け入れを可能にするためにも、引き続き社会資源の充実と確保を目指していく。
 (2) 事業所拡張に向けて利用者、職員などの意見を幅広く集約し、メリハリのある具体的な計画を策定すると同時に、着実に実施する。
 (3) 必ずしも移転を前提とした計画に固執することなく、あらゆる可能性を模索する中で、豊中市をはじめとする行政機関とも相談・連携し、既存の制度なども十分活用しながら柔軟に対応する。

(1) (2) (3) 施設の老朽化対策と事業拡張を目的に、今年度は、土地の取得に向けて不動産業者などの関係機関からの情報をもとに、条件に合致した物件を精査してきた。その結果、具体的に候補物件を絞り込み現実的な資金計画のもと、土地所有者への交渉を進めている。着実な整備計画及び将来展望をできるだけ早期に示し、現在課題となっている施設のバリアフリー化や建物の耐震強化、新施設での事業展開など、民主的経営の実現のため、利用者及びそのご家族、職員など、幅広い関係者の意見を集約するための準備している。

⑤障害者運動の推進・恒久平和への取り組み

文責：上月 和香奈・榊田 千愛

(1) 情勢の動向に目を向けていき、研修・署名活動・催しに参加していく。
 (2) 平和運動の参加と研修や会議の中で議論できる場所を設けていく。

(1) 国会請願署名活動に今年度も取り組むことができた。しかし、街頭署名に関しては、新型コロナウイルスの影響で中止となった。
 (2) 従来通りの対面での研修や会議はおこなわれなかったが、オンライン研修を活用し、障害者運動について学ぶ機会があった。

⑥その他（新型コロナウイルスに関すること）

文責：山河 正裕

今後の感染状況に鑑み、これまでの感染症対策を継続しながら、実践の充実を図っていく。引き続き、保健所や医療機関と連携しながら、利用者・職員の安心と安全を確保する。

コロナの第7波及び第8波を通して、昨年度同様、利用者とそのご家族の濃厚接触や陽性者の報告があったが、ワクチン接種率の向上も一因なのか、昨年度に比べて感染者数も大幅に減少し、また、重篤な症状の発生はなかった。ただし、2年前とは違い感染対策も含め、陽性者が発生した場合も保健所などのフォローが少なくなり、いわゆる「事業所判断」でその後の対応も適切におこなっていかねばならない負担感があった。また、感染状況を鑑みながら、自主製品の販売活動を可能な限り再開するとともに、新商品の開発もおこなってきた。まだまだコロナ前の水準には達していないが、安全・安心とともに「働く」という利用者ニーズを大切に実践を進めていく。なお、利用者の生命を守る専門職という使命感・責任感のもと、引き続き感染症対策の徹底を実施し、関係機関と連携・協力を呼びかけていく。

2022年度（令和4年度） 工房「羅針盤」 利用状況

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|-----------|-----|-----|------|------|------|------|------|------|-----|-----|-----|------|-------|-----------|
| 生活介護 | 生介 I | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 平均 利用者 |
| | 定員 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | |
| | 区分2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 18.9 |
| | 区分3 | 0 | 0 | 0 | 3 | 7 | 7 | 7 | 6 | 7 | 8 | 7 | 8 | 60 | |
| | 区分4 | 63 | 77 | 93 | 88 | 90 | 90 | 87 | 89 | 84 | 83 | 82 | 96 | 1,022 | |
| | 区分5 | 111 | 91 | 117 | 104 | 116 | 108 | 114 | 113 | 119 | 114 | 113 | 117 | 1,337 | |
| | 区分6 | 197 | 196 | 226 | 210 | 220 | 212 | 199 | 200 | 178 | 167 | 164 | 197 | 2,366 | |
| | 合計 | 371 | 364 | 436 | 405 | 433 | 417 | 407 | 408 | 388 | 372 | 366 | 418 | 4,785 | |
| | 区分5・6 (%) | 83% | 79% | 79% | 78% | 78% | 77% | 77% | 77% | 77% | 76% | 76% | 75% | 77% | |
| | 利用率 (%) | 93% | 91% | 109% | 102% | 109% | 105% | 102% | 102% | 97% | 93% | 92% | 105% | 99% | |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-----------|
| 就労継続 支援B型 | 就B I | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 平均 利用者 |
| | 定員 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | |
| | 未判定 | 214 | 205 | 224 | 200 | 209 | 206 | 205 | 212 | 208 | 173 | 201 | 243 | 2,500 | 15.2 |
| | 区分1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | 区分2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | 区分3 | 25 | 23 | 29 | 28 | 27 | 28 | 28 | 26 | 24 | 26 | 25 | 29 | 318 | |
| | 区分4 | 51 | 48 | 50 | 39 | 38 | 31 | 37 | 44 | 43 | 41 | 40 | 46 | 508 | |
| | 区分5 | 31 | 26 | 34 | 30 | 29 | 30 | 31 | 32 | 31 | 27 | 30 | 32 | 363 | |
| | 区分6 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | 合計 | 321 | 302 | 337 | 297 | 303 | 295 | 301 | 314 | 306 | 267 | 296 | 350 | 3,689 | |
| 利用率 (%) | 81% | 80% | 77% | 75% | 69% | 74% | 76% | 79% | 77% | 71% | 78% | 80% | 76% | | |

| | | | | | | | | | | | | | |
|---------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
| 開所日（生介） | 20 | 19 | 22 | 20 | 22 | 20 | 20 | 20 | 20 | 19 | 19 | 22 | 243 |
| 開所日（就B） | 20 | 19 | 22 | 20 | 22 | 20 | 20 | 20 | 20 | 19 | 19 | 22 | 243 |

2022年度（令和4年度） 社会福祉法人豊中きらら福祉会 各事業所 事業報告書

種別 障害福祉サービス【生活介護型（定員18名）】
 実施施設 名称 工房モコ
 所在地 〒560-0032 豊中市蛸池東町4-5-4 木田ハイツ1F

実施期間 2022年（令和4年）4月1日～2023年（令和5年）3月31日 開所日数 243 日

| | 管理者 | サービス管理責任者 | 生活支援員 | 就労支援員 | 看護職員 | 栄養士 | 調理員 | 事務職員 | 運転手 | マシン訓練・シ | 嘱託医 | 顧問弁護士 | 顧問社労士 | 業務委託 税理士 | 合計（常勤 換算人数） | 年間行事 | ※定例開催（月1回）：誕生会・スポーツの日 | |
|---------|-------------|-----------|--------|-------|-----------|-----|-----|------|---------|---------|---------|------------------|-----------|-------------|----------------|------|-----------------------|-------------|
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | 年間行事 |
| 従業者 | 正規 | 1 | 1(兼) | 9 | | | | | | | | | | | 9 | 4月 | お花見（ドライブ） | |
| | 非正規 | | | 1 | | 1 | | | 1 | 1 | 1 | | | | 1.3 | 5月 | | |
| | ボランティア等 | | | | | | | | | | | | | | 0 | 6月 | 健康診断 | |
| | （内障害者雇用） | | | 1 | | | | | | | | | | | 1 | 7月 | | |
| | 計 | 1 | 0 | 10 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 10.3 | 8月 | |
| 職員入退職状況 | | | | | 新規採用者 0 名 | | | | | 退職者 1 名 | | | | | 9月 | 避難訓練 | | |
| 利用者 | 身体 | 知的 | 精神 | 計 | うち重複 | | | 認定区分 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 未判定 | 計 | 10月 | |
| | | | | | 身・知 | 知・精 | 精・身 | | | | | | | | | | 11月 | インフルエンザ予防接種 |
| | 男 | | 16 | | 16 | 10 | | | | 10 | 4 | 2 | | | | 16 | 1月 | 初詣 |
| | 女 | | 4 | | 4 | 3 | | | | 2 | 2 | 0 | | | | 4 | 2月 | 節分 |
| | 計 | 0 | 20 | 0 | 20 | 13 | 0 | 0 | | 12 | 6 | 2 | 0 | 0 | 0 | 20 | 3月 | 避難訓練 |
| | 平均年齢 | | 44.1 才 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授産活動報告 | 授産内容 | | | | | | | | 利用者数(人) | 職員数(人) | 売上額(円) | 利用者一人当たり平均工賃(月額) | 受注開始年月日 | | | | | |
| | 木工製品製造販売 | | | | | | | | 20 | 8 | 208,205 | 2,500 | 平成8年4月1日 | | | | | |
| | 製菓製造販売 | | | | | | | | | | 95,219 | | 平成24年4月1日 | | | | | |
| | 内職作業 | | | | | | | | | | 267,149 | | 平成26年9月1日 | | | | | |
| | リサイクル事業・その他 | | | | | | | | | | 129,180 | | 平成21年4月1日 | | | | | |
| | | | | | | | | 計 | 699,753 | | | | | | | | | |

工房モコ

基本目標及び計画

総括

①実践の充実<生活/労働/健康管理/環境など>

文責：朝岡 真子

(1) 利用者の思いや意思を大切に、日中活動の中で選択肢が広がるよう一人ひとりの障害に配慮した支援をおこなっていく。ADLの変化に合わせて、日中の取り組みや生活を工夫し、利用者のペースでおこなえるよう支援する。
(2) 障害特性に合った作業工程や道具を工夫し、利用者主体で作業を進める。授産製品は利用者の意見を聞き商品化へつなげていく。
(3) 日々の行動や体調の変化に注意し、利用者一人ひとりの健康状態の把握に努める。引き続き、新型コロナウイルスに対して感染予防対策を徹底する。
(4) 飛沫防止フィルムの定期的な交換をおこない、感染予防対策に努める。備品などの整理整頓を日々おこない、利用者が安心安全に過ごせる環境づくりを目指す。

(1) 朝の会で利用者に活動を選んでもらい、それに合わせて作業に取り組むことができた。ADLの低下により難しくなってしまった作業はできるところまでしてもらい、残りを他の利用者に助けてもらう、またはやり方の変更や別の工程に取り組むなど、利用者が主体でおこなえるよう工夫してきた。
(2) 「内職をしたい」という利用者の意見が多くあり、今年度は内職を中心に取り組み、補助具やイラストを活用し、障害特性に合わせた作業をおこなった。木工班では、注文商品を利用者と一緒に取り組んで完成させることができた。また、製菓班でも紅茶クッキーを商品化につなげることができた。
(3) 日々の健康状態を検温などで把握していたが、12月中旬にクラスタが発生してしまう。行動制限がないため感染リスクが高まっているのと、緊張感の緩みがあったのかもしれないが、再度、個々の基本的な感染予防を徹底していく必要がある。
(4) 利用者一人ひとりの間隔を保つため、日々の整理整頓や飛沫防止フィルムの交換を定期的におこなってきたが、感染が広がってしまったため、さらなる感染予防対策の一つで移動式のパーティションを取り入れた。

②権利保障<権利擁護/事故報告書/ひやりハット報告書/苦情・相談報告書など>

文責：児玉 志野

(1) 職員は、利用者の権利を擁護すべき支援者であるということをしっかり自覚していき、不適切な支援については終礼などで議論し、教訓化できるようにしていく。
(2) 報告書を作成することによって、日々の実践での気づきや予見性を高めていく。
(3) 振り返りや終礼で議論することによって理解を深めたり、意識を向上させていく。

(1) 基本の部分が疎かにならないよう終礼などで議題にあげ、個人の尊厳を守るためにはどうすればいいのかということ議論してきた。日々の支援を振り返り、不適切な支援について意見を出し合い深めることができた。教訓化については、さらなる踏み込んだ深い議論が必要と思われる。
(2) 事務的な報告や周知をおこなうだけでなく、振り返ることによって個々の予見性が高めることができた。ADLの低下・環境の課題・障害特性によるひやりハット報告は繰り返し起きている。
(3) 議論した内容に関して、職員間で情報の共有をおこなってきたが、実践では、職員によって意識のずれがまれに見られた。

③専門性の向上と人材育成

文責：井口 朋子

(1) 色々な考え方の人が集まる職場において、それぞれの意見、気持ちを尊重しながらも、疑問点は出し合って話し合い、より良い支援につなげられる職員集団を作りあげていく。
(2) 日々の実践において、問題意識や気づきにつながるよう、専門性の向上に役立つ研修の機会を、職員の安全を最優先にしながら確保できるように努める。

(1) 日々の振り返りや終礼などで話をする時間を作り、利用者支援・感染予防について取り組みを進めてきた。職員の体調不良により日々の業務に影響が出ることがあったが、一人ひとりがフォローし合い、負担を軽くできるように配慮しながら活動してきた。職員同士での対話を大切にし、お互いの価値観を認め合い、より良い職員集団を構築できるように進めてきた。しかし、年度途中に1名の職員が退職となった（理由は腰痛の悪化が原因ではあったが）。
(2) 各委員会や外部からの案内情報を発信し、各自が選択して参加をした。また、経験年数別研修の対象者に参加を呼びかけ、連続講座を受講した。新型コロナウイルス感染症に気をつけてオンライン研修を中心に参加し、研修参加後は、取り組みにつなげられるよう報告をおこなった。

工房モコ

基本目標及び計画

総括

④事業展開の実施・民主的経営

文責：井口 朋子

現在交渉中の物件については、希望が叶えられるように相談し、契約に結びつけられるよう交渉をおこなうが、希望に沿わない場合は断念し、新たな物件を探す。なかなか希望通りの条件が整わず、移転の実現には時間がかかっているが、重要な事項であるため焦らず丁寧に進めていく。

年度初めに場所提供の話があり、移転を望んでいることを伝える。いろいろな事業所との選択があったが、「工房モコに提供したい」と連絡を受ける。年度途中、オーナーやオーナー家族、業者の見学を受け入れ、今後について話をおこなう。工房モコの事業説明をおこない、オーナーより「良い方向に進めていきたい」との話を受けていたが、2階をマンション設計で取り組む予定であったので、オーナーの家族より「工房モコの作業に必要な糸鋸の音が上階に響かないか心配だ」との声が出た。業者から「音の影響はない」と説明を受けるが、契約は後日改めてとなる。現在もオーナーは、ご家族や親戚の意見を受けて悩んでいる状況（ガレージ保存や新たなマンション設計、工房モコの建設など）であるが、依頼を断る方向ではなく前向きに検討中ということで、引き続き交渉は継続している。

⑤障害者運動の推進・恒久平和への取り組み

文責：公宅 伸治

(1)外部研修の活用や情勢を敏感に捉え、職員間で理解を深めて障害者運動を進めていく。
(2)職員一人ひとりが「平和」への問題や基本的人権の尊重が意識できるように、終礼などで討議をして深めていく。

(1)障害者運動や情勢に関する研修を受講した職員が、終礼の際に報告をおこない、研修の内容について討議することで理解を深めた。また、他団体との会議の場で得た情報を共有し、利用者の生活が豊かになるように取り組んできた。
(2)終礼の際にウクライナ情勢について議論し、「平和」に対しての考えや「人権」について各々が思うことを伝えることで、「戦争は最大の人権侵害」であり、基本的人権（生存権など）を脅かすものであるということを再確認する機会を持った。

⑥新型コロナウイルス対策

文責：武田 智也

(1)12月中旬から年末にかけて、利用者・職員の合計12名（抗原検査2名も含む）が感染し、その内2名が肺炎（ADLの低下もあり）で入院することになる。感染拡大の原因として、感染された方が症状を発症するまでのタイムラグ（感染初期）の間に、作業や食事などを通じて他の方へと感染が広がったと考えられる。感染拡大を防ぐため、発熱や細かな症状の変化があった場合は、感染対策の徹底をおこない、また、日々の利用者の健康状態を把握をして早期発見に努めていく。

2022年度（令和4年度） 工房モコ 利用状況

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|-----------|------|------|------|------|-----|------|------|------|-----|-----|-----|-----|-------|-----------|
| 生活介護 | 生介I | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 平均 利用者 |
| | 定員 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | |
| | 区分2 | | | | | | | | | | | | | 0 | 17.6 |
| | 区分3 | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | 区分4 | 20 | 18 | 29 | 24 | 23 | 23 | 25 | 23 | 14 | 19 | 19 | 25 | 262 | |
| | 区分5 | 119 | 113 | 124 | 119 | 111 | 114 | 120 | 117 | 100 | 104 | 114 | 132 | 1,387 | |
| | 区分6 | 234 | 220 | 254 | 236 | 235 | 227 | 226 | 218 | 176 | 177 | 195 | 213 | 2,611 | |
| | 合計 | 373 | 351 | 407 | 379 | 369 | 364 | 371 | 358 | 290 | 300 | 328 | 370 | 4,260 | |
| | 区分5・6 (%) | 95% | 95% | 93% | 94% | 94% | 94% | 93% | 94% | 95% | 94% | 94% | 93% | 94% | |
| | 利用率 (%) | 104% | 103% | 103% | 106% | 94% | 102% | 104% | 100% | 81% | 88% | 96% | 94% | 98% | |

| | | | | | | | | | | | | | |
|---------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
| 開所日（生介） | 20 | 19 | 22 | 20 | 22 | 20 | 20 | 20 | 20 | 19 | 19 | 22 | 243 |

2022年度（令和4年度） 社会福祉法人豊中きらら福祉会 各事業所 事業報告書

種別 障害福祉サービス【生活介護型（定員30名）・就労継続支援B型（定員10名）】
 実施施設 名称 きらら作業所
 所在地 〒560-0081 大阪府豊中市新千里北町2-19-1

実施期間 2022年（令和4年）4月1日～2023年（令和5年）3月31日 開所日数 244 日

| 従業者 | 管理 者 | 管理 責任 者 | 生活 支 援 員 | 就 労 支 援 員 | 看 護 職 員 | 栄 養 士 | 調 理 員 | 事 務 職 員 | 運 転 手 | 機 能 訓 練 ・ シ | マ ッ サ ー ジ | 嘱 託 医 | 顧 問 弁 護 士 | 顧 問 社 労 士 | 業 務 委 託 税 理 士 | 合 計 （ 常 勤 人 数 ） | 年 間 行 事 | ※定例開催：誕生会 エアロビ なかまの店販売当番 ※コロナ禍による中止： 虹色コンサート・ふらっとコンサート・障害者登山・遠足 | | |
|----------------|--------------------|------------------------------|-------------------|-----------------------|------------------|-------------|-------------|------------------|-------------|----------------------------|-----------------------|----------------------|-----------------------|-----------------------|---------------------------------|--------------------------------------|------------------|--|---------------|---------------|
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 年間行事 | 年間行事 |
| 正規 | 1 | 1(兼) | 15 | 2 | | 1(兼) | 1(兼) | 1(兼) | | | | | | | | 17 | 4月 | 入所式（各事業所にて） / 万博公園花見 | | |
| 非正規 | | | 10 | | 1 | | | | 3 | 1 | 1 | | | | | 4.3 | 5月 | 北丘小3年生交流 | | |
| ボランティ ア等 | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 6月 | 北丘小6年生交流 | | |
| (内障害者 雇用) | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 7月 | 前期健康診断 / 北丘小2年生七夕交流 | | |
| 計 | 1 | 1(兼) | 25 | 2 | 1 | 1(兼) | 1(兼) | 1(兼) | 3 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 21.8 | 8月 | 前期健康診断 / 北町みんなで楽しむナイト：中止 | | |
| 職員入退職状況 | | | | | 新規採用者 | | | | | 5 名 | | | 退職者 | | | 5 名 | | | 9月 | きららまつり / 避難訓練 |
| 利用者 | 身体 | 知的 | 精神 | 計 | うち重複 | | | 認 定 区 分 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 未 判 定 | 計 | 10月 | なかまの交流会（オンライン） | | |
| | | | | | 11月 | 北丘小4年生交流 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 12月 | インフルエンザ予防接種 / 年末お楽しみ会（オンライン） | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 男 | 12 | 26 | 1 | 26 | 12 | 1 | | 1 | 15 | 7 | | 3 | | | 1 | 26 | 1月 | 北丘小学校1年生対面交流 | |
| | 女 | 7 | 19 | 3 | 20 | 6 | 2 | | 2 | 12 | 2 | 4 | 1 | | | 1 | 20 | 2月 | 厨房班新年会（休日開所） | |
| | 計 | 19 | 45 | 4 | 46 | 18 | 3 | | 3 | 27 | 9 | 4 | 4 | 0 | 0 | 2 | 46 | 3月 | 後期健康診断 / 避難訓練 | |
| 平均年齢 | | 40.9 | | 才 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授産 活動 報告 | 授産内容 | | | | | | | | 利用者数(人) | 職員数(人) | 売上額(円) | 利用者一人当たり 平均工賃(月額) | 受注開始年月日 | | | | | | | |
| | 配食サービス事業（就労継続支援B型） | | | | | | | | 10 | 4 | 8,856,250 | 17,523 | 2004年（平成16年）4月1日 | | | | | | | |
| | 自主製品製造販売（生活介護） | | | | | | | | 36 | 19 | 680,201 | 5,153 | | | | | | | | |
| | 内職作業（生活介護） | | | | | | | | | | 217,290 | | | | | | | | | |
| | その他（生活介護） | | | | | | | | | | 387,650 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | 計 | 10,141,391 | | | | | | | | | | |

きらら作業所

| 基本目標及び計画 | 総括 |
|--|---|
| <p>①実践の充実<生活/労働/健康管理/環境など></p> <p>(1) 利用者に寄り添った支援をもとに、安心して過ごせる日中活動環境の提供と整備をおこなう。 (2) 工賃規定通りに保障するための売り上げを確保する。 (3) 他機関やご家族と密に連携をとることで、日々の生活を安定して送れるよう支援する。 (4) 利用者の健康管理、感染症予防及び感染拡大防止に努める。 (5) 情報共有と報連相の徹底に努める。</p> | <p>文責：坂垣 亜樹登</p> <p>(1) 新型コロナの影響や利用者家族の高齢化などが要因となり、環境の変化が大きい一年であったが、利用者に合わせた環境の提供と整備を心がけてきた。今後も高齢化や障害特性に伴った転倒や対人トラブルなどのリスクはあるため、利用者に合わせた支援方法の検討を継続していく。 (2) 給与や賞与を工賃規定通りに支給することができた。授産は、売り上げの向上を図るため新しい商品を開発しており、内職は、納品先が増えたこともあり売上額が倍増している。配食サービスでは、前年度より受注食数が減る中、食材などの値上がりも継続中のため、値上げを視野に入れた価格の検討が必要である。 (3) (5) 少しでも安心して生活できるように、利用者の些細な変化も職員間で情報共有をおこない、必要に応じて家族や関係機関への聞き取りや、作業所内の環境整備を実施してきた。 (4) マスクの着用、手洗い、換気を引き続きおこなった。障害特性上、それらが難しい利用者もいたため、適切な距離を取ったり声かけをしたり、消毒の徹底やパーテーションの活用もおこなった。</p> |
| <p>②権利保障<権利擁護/事故報告書/ひやりハット報告書/苦情・相談報告書など></p> <p>(1) 不適切支援などについての議論を継続し、日々の支援を振り返ることで、利用者の権利を保障する。 (2) 事故を未然に防ぐためにも、ひやりハット作成の必要性を意識できるように、今後も班会議などで振り返り、情報共有をおこなう。 (3) 前年度、苦情・相談報告を具体的な事案につなげることができており、今後も引き続き事案に気づけるようにする。</p> | <p>文責：天本 有紀</p> <p>(1) 虐待防止チェックリストを実施し、挙がった意見を各班会議で共有して議論をした。議論することで日々の支援を振り返り、不適切な支援の改善を図ることができた。 (2) 班会議や終礼で情報共有をおこなった。積極的な報告書類の作成につながっている一方で、同じような事案が続いた際、終礼でのみの共有となるが多かった。本来は、その都度、報告書類を作成するべきであったが、同じ事案ということもあり共有だけに留まった。書類の作成にはつながらなかった事案もあったが、共有することで事故の減少につなげることはできた。 (3) 苦情・相談について、事例によっては、報告書類とは別に文書で全職員に共有した（送迎について出た近隣住民からの苦情）。</p> |
| <p>③専門性の向上と人材育成</p> <p>(1) 各職員が専門的役割を自覚するためにも学ぶ場は大切であるため、その時間の確保に努める。 (2) より良い支援を目指して各班ではなく全体でケース会議をおこない、そこで見えた課題を検討することで学びや改善につなげる。 (3) 聴く力と伝える技術の向上も兼ねて、今年度もワークショップをおこない、その時間を重ねるなかで、互いを知り、認め合える職員集団づくりを目指す。</p> | <p>文責：大西 明子</p> <p>(1) 経験年数や本人の希望に合わせて、大阪障害者センターや大阪府社協の研修にそれぞれで参加した。 (2) (3) ワークショップでは、職員が持ち回りでテーマを決め、学習会や授産製品、取り組みに関する話、ケース検討などをおこなった。しかし、ワークショップ以外では、各班での検討に留まることがほとんどで、全体への報告はあるが、議論を深めるということはあまりなかった。職員体制が厳しい中、各職員が日々の業務に追われてしまい、その余裕がなかった。今後は、職員補充とその安定に努め、その専門性について各職員が自覚し、その視野をいかに広げ、いかに全体で共有していくかが課題である。</p> |

きらら作業所

基本目標及び計画

総括

④事業展開の実施・民主的経営

文責：大西 明子

(1) 利用者が安心・安全に過ごせるように車両や施設の整備に努める。
 (2) 今までの慣例などに囚われることなく、作業所全体を柔軟に捉えて、班をまたいで支援できる職員体制を構築し、その安定に努める。
 (3) 各業務の内容を明確にし整理する。その上で、負担が偏らないように役割分担する。
 (4) バックアップ施設として、グループホームとスムーズに連携・協力できる職員体制を整える。兼務となる職員のあり方については、職員間で確認しながら取り組んでいく。

(1) 車両や空調機器の買い替えをおこなったが、故障後の入れ替えとなってしまう不便なこともあった。今後は、経過年数も考慮した計画的な入れ替えや修繕が必要である。
 (2) (3) 他班と合同での取組みや作業する機会も少しずつ増えている。しかし、退職に伴う職員体制の不足が続く中、突発的な職員の欠勤が重なると、他事業所からヘルプに入ってもらったこともあり、体制に余裕がない場面も多かった。役割分担もおこなったが、全体に余裕がなく突発的なフォローが常態化すると、業務負担に偏りが出ることもあった。
 (4) きらら作業所に所属する兼務職員の退職に伴い、継続的な連携ができず限定的な協力となった。今後も職員補充をおこなって体制を整えていく中で、バックアップ施設として再度兼務職員の配置をしていく。

⑤障害者運動の推進・恒久平和への取り組み

文責：鷲本 恵一郎

(1) 障害者運動の推進のために、コロナ禍でも地域との交流を絶やさず続けていく。コロナ禍の状況に対応し、今後もソーシャルディスタンスを遵守し、小集団での交流やネットを活用したリモート交流方法で地域との交流をおこなう。
 (2) 憲法9条関連の署名に協力するなど、恒久平和へとつながる取り組みをおこなう。

① 新型コロナウイルスの流行が継続したことにより、地域の祭りや催しの多くが自粛している中、催しを再開もしくは継続しているところもあった。北町マルシェやジオフェスタなどの地域の催しに参加し、授産品販売やきらら作業所のパンフレット配布などの啓発活動をおこなった。北丘小学校との交流は、今年度よりソーシャルディスタンスを遵守した環境下で、さくらんぼ狩りや七夕交流会などの対面での交流をおこなった。
 ② 憲法9条関連の署名に協力するなど、恒久平和へとつながる取り組みをおこなったが、恒久平和につながる憲法9条への研修などはおこなわなかった。

⑥その他（新型コロナウイルス対策）

文責：大西 明子

(1) 毎日の検温実施と健康観察、手洗いやマスク着用の励行。所内や車内の定期的なアルコール消毒・換気の実施に加え、所内は乾燥しないように湿度を管理し、加湿器や噴霧器を用いて加湿に努める。
 (2) 新型コロナウイルス対策に関して、制限されることがあったり、ストレスのかかることも多いため、正しい情報をもとにした細やかな対応に努める。

(1) 日々、感染防止対策に努めたが、年末の同時期に数名の陽性者が判明したため、感染拡大防止の観点から2日間作業所を閉め、在宅対応へと切り替えた。
 (2) 班ごとの戸外活動（少人数での外など）を、その時々感染状況を見極めながら再開し、利用者の希望に沿って取り組むことができた。また、外部イベントの中止や参加を見送ることもあったが、万博公園のお花見散策やきららまつりなど、所内イベントを感染防止対策のもとおこなった。

2022年度（令和4年度） きらら作業所 利用状況

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|-----------|------|-----|-----|------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-----------|
| 生活介護 | 生介 I | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 平均 利用者 |
| | 定員 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 | |
| | 区分2 | | | | | | | | | | | | | 0 | 29.6 |
| | 区分3 | 12 | 11 | 14 | 11 | | | | | | | | | 48 | |
| | 区分4 | | | | | 11 | 12 | 12 | 10 | 11 | 11 | 9 | 14 | 90 | |
| | 区分5 | 140 | 116 | 133 | 138 | 151 | 138 | 143 | 140 | 132 | 136 | 112 | 122 | 1,601 | |
| | 区分6 | 450 | 428 | 491 | 452 | 506 | 442 | 437 | 437 | 435 | 414 | 439 | 508 | 5,439 | |
| | 合計 | 602 | 555 | 638 | 601 | 668 | 592 | 592 | 587 | 578 | 561 | 560 | 644 | 7,178 | |
| | 区分5・6 (%) | 98% | 98% | 98% | 98% | 98% | 98% | 98% | 98% | 98% | 98% | 98% | 98% | 98% | |
| | 利用率 (%) | 101% | 98% | 97% | 101% | 102% | 99% | 99% | 98% | 97% | 99% | 99% | 98% | 99% | |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-----------|
| 就労継続 支援B型 | 就B I | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 平均 利用者 |
| | 定員 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | |
| | 未判定 | 37 | 34 | 42 | 33 | 42 | 38 | 38 | 35 | 35 | 30 | 34 | 37 | 435 | 6.7 |
| | 区分1 | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | 区分2 | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | 区分3 | 58 | 53 | 64 | 55 | 65 | 58 | 55 | 58 | 54 | 53 | 51 | 57 | 681 | |
| | 区分4 | 19 | 20 | 27 | 28 | 29 | 26 | 20 | 21 | 23 | 15 | 21 | 27 | 276 | |
| | 区分5 | 20 | 19 | 22 | 20 | 21 | 20 | 20 | 20 | 20 | 19 | 18 | 22 | 241 | |
| | 区分6 | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | 合計 | 134 | 126 | 155 | 136 | 157 | 142 | 133 | 134 | 132 | 117 | 124 | 143 | 1,633 | |
| 利用率 (%) | 67% | 67% | 71% | 68% | 72% | 71% | 67% | 67% | 66% | 62% | 62% | 65% | 67% | | |

| | | | | | | | | | | | | | |
|---------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
| 開所日（生介） | 20 | 19 | 22 | 20 | 22 | 20 | 20 | 20 | 20 | 19 | 19 | 22 | 243 |
| 開所日（就B） | 20 | 19 | 22 | 20 | 22 | 20 | 20 | 20 | 20 | 19 | 20 | 22 | 244 |

2022年度（令和4年度） 社会福祉法人豊中きらら福祉会 各事業所 事業報告書

種別 障害福祉サービス【生活介護型（定員18名）・就労継続支援B型（定員18名）】
 実施施設 名称 第2工房「羅針盤」
 所在地 〒561-0808 大阪府豊中市原田元町2-25-21

実施期間 2022年（令和4年）4月1日～2023年（令和5年）3月31日 開所日数 243 日

| 従業者 | 管理者 | 管理責任者 サービス | 生活支援員 | 就労支援員 | 看護職員 | 栄養士 | 調理員 | 事務職員 | 運転手 | 機能訓練 マツサー 機 | 嘱託医 | 顧問 弁護士 | 顧問 社労士 | 業務委託 税理士 | 換算計（常勤 人数） | 年間行事 | | | | | |
|----------|------------------------------------|---------------|--------|-------|----------|-----|-----|------|---------|-------------------|-----------|----------------------|-----------------|-------------|---------------|---------------|----------|----------------|----------|-----|----------------------|
| | 正規 | 1 | 1(兼) | 7 | 2 | | | | | | | | | | | 11 | 4月 | 保健医療大学実習・期日前投票 | | | |
| 非正規 | | | 10 | | 1 | | | | 3 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 7.9 | 5月 | 保健医療大学実習 | | | | |
| ボランティア等 | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 6月 | 保健医療大学実習 | | | | |
| (内障害者雇用) | | | 1 | | | | | | | | | | | | 0.4 | 7月 | 保健医療大学実習 | | | | |
| 計 | 1 | 0 | 18 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 3 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 19.3 | 8月 | | | | | |
| 職員入退職状況 | | | | | 新規採用者 2名 | | | | | 退職者 1名 | | | | | 9月 | 保健医療大学実習・健康診断 | | | | | |
| 利用者 | | | | | うち重複 | | | 認定区分 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 未判定 | 計 | 10月 | 保健医療大学実習・健康診断 | | | |
| | | | | | 身・知 | 知・精 | 精・身 | | | | | | | | | | | | | 11月 | 保健医療大学実習・インフルエンザ予防接種 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 12月 |
| | 男 | 35 | 5 | 14 | 54 | 2 | 0 | | 3 | 7 | 14 | 8 | 9 | 1 | 2 | 14 | 55 | 1月 | 保健医療大学実習 | | |
| | 女 | 7 | 0 | 3 | 10 | 0 | 0 | | 1 | 1 | 4 | 1 | 1 | 2 | 0 | 4 | 13 | 2月 | | | |
| | 計 | 42 | 5 | 17 | 64 | 2 | 0 | | 4 | 8 | 18 | 9 | 10 | 3 | 2 | 18 | 68 | 3月 | | | |
| 平均年齢 | | | 59.4 才 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授産活動報告 | 授産内容 | | | | | | | | 利用者数(人) | 職員数(人) | 売上額(円) | 利用者一人当たり 平均工賃(月額) | 受注開始年月日 | | | | | | | | |
| | 下請け（タオル折り・金属の組み立て等）＜生活介護/就労継続支援B型＞ | | | | | | | | 22 | 6 | 1,116,332 | 3,397 | 2011年（平成23年）7月 | | | | | | | | |
| | 手芸（布ぞうり・ヘアゴム・縫製等）＜生活介護＞ | | | | | | | | 6 | 3 | 162,970 | | 2011年（平成23年）7月 | | | | | | | | |
| | 木工（日用雑貨・玩具等）＜就労継続支援B型＞ | | | | | | | | 22 | 5 | 347,822 | | 2011年（平成23年）7月 | | | | | | | | |
| | 製菓（焼きドーナツ）＜就労継続支援B型＞ | | | | | | | | 6 | 2 | 612,524 | | 2011年（平成23年）7月 | | | | | | | | |
| | 装飾品（ハンブレスレット・ストラップ等）＜就労継続支援B型＞ | | | | | | | | 2 | 2 | 90,170 | | 2012年（平成24年）4月 | | | | | | | | |
| | 紙漉き（ポチ袋・カレンダー等）＜就労継続支援B型＞ | | | | | | | | 10 | 2 | 275,912 | | 2015年（平成27年）10月 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | 計 | 2,605,730 | | | | | | | | | | | |

第2工房「羅針盤」

基本目標及び計画

総括

①実践の充実<生活/労働/健康管理/環境など>

文責：小笠原 洸一

(1) 販売活動やイベントなどに参加しづらい状況でも、別の販売方法模索し販売機会を増やすことで、授産活動にやりがいをもっていただけるよう支援をしていく。

(2) 高齢化・病状の進行に伴う身体状況の低下に対し、維持・改善につながるよう医療やご家族と連携を図る。

(3) 安心して通所できるための整備や環境づくりをおこなう。

(1) 職員のみで販売に参加し、感染リスクの軽減をおこなった。感染状況を考慮しながら販売活動を継続し、さらには新たな地域のイベントにも参加することで、利用者の意欲向上と売り上げアップに努めた。

(2) 高齢化・病状の進行に伴い、ADLの低下から転倒される方や体調を崩される方が多くなり、入院されるケースも増えた。転倒後に通所されて職員の促しにより医療につなげることができ回復された方や、嚥下機能の低下から入院され長期休みになっている方など、昨年度とは違った身体状況の方が多かった。また、利用者のご家族と関係を良好に保つことで情報共有が円滑になり、連携が取りやすくなった。

(3) ADLの低下から見守りを今まで以上に強化し、より安全に過ごしていただけるように環境を整えた。感染症対策での換気による室温低下や、例年に比べて寒さが厳しく体調を崩される方が多かったため、暖房器具を増やし対応をおこなった。

②権利保障<権利擁護/事故報告書/ひやりハット報告書/苦情・相談報告書など>

文責：肥前 貴明

(1) 事故報告書、ひやりハットの正確な情報を周りと共有するために、事故が起きたその日のうちに報告書を挙げるよう職員一人ひとりが意識する。

(2) 運転歴に関係なく改めて自身の運転に危険な点がないか見直し、周囲の安全確認の徹底と冷静な気持ちで運転するよう心がけて事故件数を減らす。

(3) 利用者の事故や権利侵害を未然に防ぐために、過去に多く挙がっている事故などの事案をリストアップして職員全体で共有、話し合いをおこなう。

(1) 事故が起きた日に報告書を挙げる意識はしていたが、遅れが生じることがあった。担当から早期に提出を促すように呼びかけたが、日数を要してしまっていた。再発防止につなげていくためにも、報告書の重要性を深く理解していくよう努める。また、作成する際には、当事者の職員だけでなく同じ場にいた職員からも情報を聞き取るようにし、より詳細な報告書を作成した。

(2) 車両事故の件数は、昨年度と比較して半数以下に減少（7件→2件）したが、納品や送迎時など、時間に余裕がないケースに接触事故が起きていた。時間に余裕を持って運転業務にあたれるように、スケジュールをうまく調整し、周囲の安全確認と目視を徹底していく。

(3) 事故が起きたらその都度、職員間の話し合いの中で対策案を検討していたが、落葉や鉄などを使用している時の怪我が繰り返し起きていた事案として挙がっていた。報告書の【原因と教訓】が生かされていなかったため、繰り返しの事故が起きていたと考えられる。

③専門性の向上と人材育成

文責：今西 あゆみ

(1) 新たなメンバー編制での組織力の向上を図る。

(2) 新人職員を育成する。

(3) 支援に必要な学習を実施し、専門性の向上を図る。

(1) 職員配置の変更や新人職員が入ったことにより、新たな視点から物事を捉えることができた。また、職員の急な休みやイレギュラーな対応が発生した時に判断・決定が迅速になった。しかし、コミュニケーション不足により連携が取れず、組織力が低下してしまうこともあった。

(2) 職員がテーマごとにOJT研修を実施し、日々の指導をおこなった（1名在籍・1名離職）。

(3) 経験年数に応じた研修の参加や、正規職員と非常勤合わせたフロア単位の研修をおこなった。

第2工房「羅針盤」

基本目標及び計画

総括

④事業展開の実施・民主的経営

文責：奥田 真

- (1) 長期欠席者への状況に応じたフォローアップをおこなう。
- (2) 経験や障害特性に応じた研修企画する（人事評価などからニーズ抽出）。
- (3) セルフマネジメントの強化（自己管理能力・自己理解能力）。
- (4) 職員集団の活性化（フロアバランス・業務量の軽減と均等化）。
- (5) 行政・地域・関係機関との連携や啓発をおこなう。

- (1) 今期は入院による長期欠席者が増加し、入退院時にご家族やMSWと連絡をとり、ケースによっては、オンラインでカンファレンスに出席させていただくこともあった。
- (2) 高次脳機能障害による記憶障害・社会的行動障害の対応について、障害特性とご本人背景も含めた支援方法について学んだ。当事者だけでなくご家族がどのように障害を理解し受け止め暮らしているのか、インタビュー動画を活用した研修を実施した。
- (3) 人事異動や退職者の関係で職員配置や担当利用者の変更が生じ、利用者との関係づくりや新たな職員集団で、環境などの変化が大きなストレスにつながった職員も数名発生した。本人がストレスと向き合い、適切な治療を受けたことや周囲の理解や協力を経て短期間で復帰することができた。今回の経験も今後のセルフマネジメントにつなげていきたい。
- (4) コロナ禍で職員体制が整わない状況でも、フロア責任者が主となり適切な配置・指示をおこなうことで、不安定な体制も乗り切ることができた。利用者が少なく体制にゆとりがある日は、デスクワークの時間も積極的に取り入れることができていた。
- (5) 府の自立支援協議会や市の施策推進協議会に参加し、高次脳機能障害への理解を広げるための啓発を続けている。地域については、今年度、新たに豊中市立第一中学校でのイベントや、こども食堂を開いているNPO主催のハンドメイドマルシェなどに参加し、新たなつながりが生まれた。

⑤障害者運動の推進・恒久平和への取り組み

文責：原 彩音

- (1) 研修などに参加し、障害者運動や平和について学び、知識を深めていく。得た知識を職員間で共有し、より良い発展につなげていく。
- (2) 対面形式による販売活動のみでなく、状況によってはカタログ販売などを用いて地域とのつながりを築いていく。

- (1) 所内で新人職員に向けたOJTや、月イチ学習という形で各職員が月ごとに利用者の事例検討や情勢について話し合い情報共有をおこなった。
- (2) 昨年度に続き、対面式での販売の件数は減少しつつある。感染状況を見ながらお祭りなどに数件参加はできたものの、販売活動に関しては、感染状況も踏まえ依然として課題である。夏季・冬季のカタログを第2工房「羅針盤」の部分だけを抜粋して使用することもあったが、今後も販路拡大と啓発活動も含め、当事業所のみでのカタログ作成も検討していく必要がある。

⑥その他（新型コロナウイルス対策）

文責：田中 麻実

- (1) 新型コロナウイルスに対する感染予防を実施する。
- (2) 衛生用品の確保と環境の整備を継続して進める。
- (3) 罹患者や、罹患の可能性のある方に対するケアを想定し、実践につなげる。
- (4) コロナ禍におけるストレスの軽減や、職員の欠員が重なった時の体制づくりを検討していく。

- (1) 昨年に続き換気・パーテーション・消毒・食事時の黙食を実施し、感染予防・感染拡大防止に努めている。罹患者は出たが濃厚接触者は出なかった。今後の所内の感染予防については、その都度検討を重ね、その時々に見合った感染予防を実施していく。
- (2) 必要なものを定期的に点検し補充していくことで、衛生用品の確保と環境の整備を継続している。
- (3) 罹患の可能性のある方への対応は、ここ数年での実践で職員も経験を積んでいることから冷静に判断し、連携を取ることができた。
- (4) 職員全体がどのフロアでも対応できるようにしていくことで、同じフロアで職員の欠員が重なった時でも対応することができた。昨年まで職員はフェイスシールドを着用していたが、息苦しさや見えにくさなど、職員の負担も大きく利用者の声の聞き取りにくさもあることから、常時の着用を中止し、食事介助や口腔ケアなど、感染リスクの高い時のみの着用とした。また、コロナ禍におけるストレスから体調を崩す職員が出た。不安やストレスをどのように軽減していくか、引き続き検討していかなければならない。

2022年度（令和4年度） 第2工房「羅針盤」 利用状況

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|-----------|------|------|------|-----|-----|------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-----------|
| 生活介護 | 生介I | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 平均 利用者 |
| | 定員 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | |
| | 区分2 | 3 | 1 | 4 | 1 | 4 | 1 | 3 | 4 | 4 | 2 | 1 | 5 | 33 | 18.0 |
| | 区分3 | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | 区分4 | 53 | 49 | 59 | 51 | 53 | 49 | 44 | 44 | 43 | 41 | 44 | 49 | 579 | |
| | 区分5 | 234 | 221 | 261 | 233 | 241 | 234 | 228 | 218 | 220 | 189 | 190 | 244 | 2,713 | |
| | 区分6 | 99 | 75 | 86 | 70 | 89 | 102 | 97 | 88 | 76 | 78 | 80 | 85 | 1,025 | |
| | 合計 | 389 | 346 | 410 | 355 | 387 | 386 | 372 | 354 | 343 | 310 | 315 | 383 | 4,350 | |
| | 区分5・6 (%) | 86% | 86% | 85% | 85% | 85% | 87% | 87% | 86% | 86% | 86% | 86% | 86% | 86% | |
| | 利用率 (%) | 109% | 102% | 104% | 99% | 98% | 108% | 104% | 99% | 96% | 91% | 93% | 97% | 100% | |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-----------|
| 就労継続 支援B型 | 就B I | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 平均 利用者 |
| | 定員 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | |
| | 未判定 | 193 | 191 | 214 | 205 | 205 | 177 | 191 | 169 | 167 | 147 | 172 | 204 | 2,235 | 15.0 |
| | 区分1 | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | 区分2 | 48 | 44 | 46 | 40 | 53 | 45 | 43 | 49 | 41 | 27 | 30 | 37 | 503 | |
| | 区分3 | 54 | 45 | 63 | 52 | 61 | 50 | 48 | 59 | 69 | 58 | 50 | 68 | 677 | |
| | 区分4 | 8 | 7 | 9 | 7 | 19 | 17 | 19 | 16 | 14 | 18 | 19 | 23 | 176 | |
| | 区分5 | | | | | | | | | | 10 | 11 | 13 | 34 | |
| | 区分6 | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | 合計 | 303 | 287 | 332 | 304 | 338 | 289 | 301 | 293 | 291 | 260 | 282 | 345 | 3,625 | |
| 利用率 (%) | 85% | 84% | 84% | 85% | 86% | 81% | 84% | 82% | 81% | 77% | 83% | 88% | 83% | | |

| | | | | | | | | | | | | | |
|---------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
| 開所日（生介） | 20 | 19 | 22 | 20 | 22 | 20 | 20 | 20 | 20 | 19 | 19 | 22 | 243 |
| 開所日（就B） | 20 | 19 | 22 | 20 | 22 | 20 | 20 | 20 | 20 | 19 | 19 | 22 | 243 |

2022年度（令和4年度） 社会福祉法人豊中きらら福祉会 各事業所 事業報告書

実施施設 種別 障害福祉サービス【生活介護型（定員20名）】
 名称 クレヨン
 所在地 〒561-0834 大阪府豊中市庄内栄町4-12-17

実施期間 2022年（令和4年）4月1日～2023年（令和5年）3月31日 開所日数 245 日

| 従業者 | 管理 者 | 管理 責任 者 | サ ー ビ ス | 生 活 支 援 員 | 就 労 支 援 員 | 看 護 職 員 | 栄 養 士 | 調 理 員 | 事 務 職 員 | 運 転 手 | 機 能 訓 練 ・ シ | マ ッ サ ー ジ | 嘱 託 医 | 顧 問 弁 護 士 | 顧 問 社 労 士 | 業 務 委 託 税 理 士 | 換 算 人 数 （ 常 勤 ） | 年 間 行 事 | ※定例開催： 【毎月1回】誕生日会・調理実習・ふれあい会議（利用者主体の授産会議）・音楽教室（※新型コロナの影響で中止の月もあり） | |
|---------|----------------------------|---------------|------------------|-----------------------|-----------------------|------------------|-------------|------------------|------------------|-------------|----------------------------|-----------------------|-----------------------------------|-----------------------|-----------------------|---------------------------------|--------------------------------------|---|--|--------------------|
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 正 規 |
| | 1 | 1(兼) | | 8 | | | | | | | | | | | | | | 8 | 4月 | 入所式（事業所内）・花見（ドライブ） |
| | | | | | | 1 | | | | | | | 1 | | | | | 0.2 | 5月 | 防災訓練（火災） |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 6月 | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 7月 | 健康診断・防災訓練（地震＋津波） |
| | 1 | 0 | | 8 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 9.2 | 8月 | 健康診断 |
| 職員入退職状況 | | | | | | 新規採用者 0 名 | | | | | 退職者 0 名 | | | | | 9月 | 防災訓練（地震＋津波）・防災学習・昼食作り | | | |
| 利用者 | 身 体 | 知 的 | 精 神 | 計 | うち重複 | | | 認 定 区 分 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 未 判 定 | 計 | 10月 | インフルエンザ予防接種・素のままフェスタ【休日開所】・なかまの交流会【リモート】 | | |
| | | | | | 身・知 | 知・精 | 精・身 | | | | | | | | | | 11月 | 庄内バル【2日のうち1日だけ休日開所】・インフルエンザ予防接種・防災訓練（地震＋火災） | | |
| | 男 | 1 | 16 | 1 | 18 | 5 | 1 | | | 6 | 8 | 4 | | | | | 18 | 1月 | 書初め・初詣・成人のお祝い・防災訓練（地震＋火災）・防災学習会・署名学習会 | |
| | 女 | 1 | 5 | 2 | 8 | 1 | | | | 4 | | 4 | | | | | 8 | 2月 | 豆まき・署名学習会 | |
| | 計 | 2 | 21 | 3 | 26 | 6 | 1 | | 0 | 6 | 12 | 4 | 4 | 0 | 0 | 0 | 26 | 3月 | 防災訓練（火災／地震） | |
| | 平均年齢 | | 30.6 才 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授産活動報告 | 授産内容 | | | | | | | | 利用者数(人) | 職員数(人) | 売上額(円) | 利用者一人当たり平均工賃(月額) | 受注開始年月日 | | | | | | | |
| | 内職作業（タオル/包装紙） | | | | | | | | 26 | 8 | 190,250 | 2,400 | 2016年（平成28年）1月5日/2019年（平成31年）4月1日 | | | | | | | |
| | 内職作業（袋詰め/ポストिंग） | | | | | | | | | | 113,892 | | 2022年（令和4年）6月1日 | | | | | | | |
| | 自主製品製造販売事業（プレスレット/コースターなど） | | | | | | | | | | 95,000 | | 2020年（令和2年）12月1日/2022年（令和4年）4月1日 | | | | | | | |
| | リサイクル事業（廃品回収/アルミ缶回収） | | | | | | | | | | 424,530 | | 2016年（平成28年）1月5日 | | | | | | | |
| | その他事業（沖縄物産/販売事業など） | | | | | | | | | | 104,730 | | 2016年（平成28年）1月5日 | | | | | | | |
| | | | | | | | | 計 | 928,402 | | | | | | | | | | | |

クレヨン

基本目標及び計画

総括

①実践の充実<生活/労働/健康管理/環境など>

文責：羽田 博司・仲宗根 工

(1)自由に発言できる環境を作る中で、発言が難しい利用者に対する配慮をしていく。また、人間関係の構築で苦戦する利用者の対応の仕方を考えていく。
(2)本人の意向と家族の思いの実現に向けて、必要な情報提供や他機関との連携を深めていく。
(3)働く意欲の向上に向けて、ふれあい会議を利用して収支報告の理解度を深めていけるように必要な配慮をする。
(4)地域と交流していく中で、廃品回収先を増やしていき、自主製品の紹介もしながら販路拡大につなげていく。

(1)ふれあい会議などで発言する機会を作ってきた。発信が難しい利用者には、職員から話題を振ることやそれぞれに応じたフォローをしてきたことで、発信ができるようになってきたが、まだ十分ではないので発信しやすい環境は今後も作っていく。また、利用者の障害特性を踏まえて代弁などをする中で、相手の思いや考えを知ろうとする姿が見られた。
(2)送迎時や電話などで家族の思いを聞くことはできたが、コロナ禍で面談まではできていない。また、他機関との連携も続けてきたが、本人と家族の意向が違うなどで、その実現に向けて様々な課題が見えてきた。
(3)収支報告の内容を分かりやすくするため、提示の仕方について利用者を含めて話し合ってきた。表を作って視覚的に分かるようにしたことで、仕事に対する意欲が高まったケースもあった。
(4)廃品回収のピラを広範囲に配り、回収先は約1.5倍増加し、事業所まで持ってきていただける方もおり、全体的な回収量は増えている。自主製品は、ピラの裏に商品の紹介を載せ、オンラインカタログにも掲載している。今後は、どう購入につなげていくかを考えていく必要がある。

②権利保障<権利擁護/事故報告書/ひやりハット報告書/苦情・相談報告書など>

文責：宮前 貴行

(1)利用者目線や客観的視点で日々の支援を振り返り、職員全体で権利擁護に対する意識の向上を図っていく。
(2)前向きな意識を持って、権利侵害を未然に防いでいくためにも、不適切支援について議論を、定例会議だけでなく毎日の終礼でもしていけるようにする。
(3)報告書などで振り返るだけでなく、教訓化してきたことを実践に生かし、繰り返し起きている事案を減らしていく。
(4)人権感覚を磨くためにも、会議の中でいろいろなテーマを取り上げ、それぞれの考えや感じたことなどをもとに議論していく。

(1)終礼や会議で支援の振り返りはできている。職員全体の議論だけでなく、研修などで障害特性の理解を深め、権利擁護の意識をさらに高めていく必要がある。
(2)利用者の障害特性を理解できていない事案がなくなったわけではないが、より良い支援に向けての議論を意識しておこなってきたことで、前向きな意識を持てるようになった。
(3)繰り返し起きている事案については、教訓化して実践していくことができていない。原因としては、利用者や家族の立場になって考えられていないことや、各職員の意識の差があることが考えられる。教訓化するためにどうしていくかを具体的に考え、教訓化したことが実施できているのかを振り返る機会が必要である。また、それをどう実践に生かしていくかも考えていく。
(4)会議での報告などで様々なテーマをもとに議論をしているので、今後も人権感覚を磨くための議論を大事にしていく。

③専門性の向上と人材育成

文責：日野 聡也

(1)日常的に謙虚な気持ちを持って、より良い職員集団作りをするという共通認識のもと、支援の振り返りや客観的・俯瞰的視点での話し合いを大事にしていく。
(2)情勢報告や研修報告の時間を確保し、学び合える機会を大事にする。
(3)オンライン研修を有効活用し、スキルアップにつなげる。
(4)学んだことや感じたことなどを言語化する習慣をつけ、伝える力だけでなく聞く力もつけていく。

(1)終礼や会議の中で支援の方向性や利用者の思いなどを客観的視点で話し合い、共通認識を持てるようになってきたことで、支援のばらつきが減ってきている。個々の視点を大事にしながらも、方向性を一致させていく建設的な議論が継続できるようにする。
(2)会議や終礼前の報告を通して学ぶ機会は増えてきている。ただ、報告のための資料作成に時間を要し、報告時間が長くなるなどの課題が見えてきた。何を伝えたいのかを考えて報告し、全体で共有することを大事にしていく。
(3)オンライン研修を十分に活用できているが、実践には十分に生かしていないので、学んだことをしっかりと理解し、それを実践につなげていくために必要なフォローなども考えていく。
(4)なぜ言語化しているのかを改めて考える一年であった。言語化する習慣はついてきているので、さらなるスキルアップにつなげていきたい。

クレヨン

基本目標及び計画

総括

④事業展開の実施・民主的経営

文責：日野 聡也

事業所の環境が手狭になってきているが、地域に開かれた社会資源の一つとして、見学や実習などの受け入れは継続していく。

今年度の新規利用者は2名となり、豊中支援学校と東淀川支援学校の卒業生であった。実習は、豊中支援学校の高等部2年生が1名来た。地域に開かれた社会資源として、今後も見学や実習の受け入れを続けていきながら、手狭になってきている環境の工夫も考えていく。

⑤障害者運動の推進・恒久平和への取り組み

文責：宮崎 憲一・萩原 歩美

(1)職員だけでなく利用者・家族を含めて、選挙や国会請願署名の意義や重要性についての学習を継続し、社会情勢に敏感になれるようにする。
(2)恒久平和の取り組みに日頃から関心を持ち、知ることから始めるなどできることから少しずつ進めていく。

(1)選挙や国会請願署名の学習会を定期的におこなってきたことで、関心を持った利用者からの質問や自分事として捉えることにつながったが、家族に対しては、署名用紙を渡すだけに留まるが多かった。選挙前には、家族向けにアンケートをしたところ反応は様々であった。これからも利用者や家族、職員が自分事として捉えていけるように、選挙や署名の重要性とその内容を深めていきつつ、アンケートや発信方法の工夫などもしていく。
(2)恒久平和の意識は、利用者も含めて持ち始めているので、今後もふれあい会議などの時間を使って、利用者と話し合う機会を作っていく。

2022年度（令和4年度）クレヨン 利用状況

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|-----------|------|------|------|------|------|------|------|-----|------|------|------|------|-------|-----------|
| 生活介護 | 生介I | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 平均 利用者 |
| | 定員 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | |
| | 区分2 | | | | | | | | | | | | | 0 | 20.7 |
| | 区分3 | 84 | 80 | 96 | 87 | 95 | 93 | 89 | 74 | 70 | 66 | 65 | 77 | 976 | |
| | 区分4 | 42 | 39 | 49 | 49 | 49 | 46 | 51 | 69 | 71 | 68 | 66 | 82 | 681 | |
| | 区分5 | 216 | 202 | 238 | 221 | 210 | 192 | 209 | 185 | 169 | 169 | 166 | 194 | 2,371 | |
| | 区分6 | 73 | 70 | 79 | 72 | 102 | 91 | 91 | 84 | 93 | 88 | 87 | 101 | 1,031 | |
| | 合計 | 415 | 391 | 462 | 429 | 456 | 422 | 440 | 412 | 403 | 391 | 384 | 454 | 5,059 | |
| | 区分5・6 (%) | 70% | 70% | 69% | 68% | 68% | 67% | 68% | 65% | 65% | 66% | 66% | 65% | 67% | |
| | 利用率 (%) | 104% | 103% | 105% | 108% | 104% | 106% | 105% | 99% | 101% | 103% | 102% | 104% | 104% | |

| | | | | | | | | | | | | | |
|---------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
| 開所日（生介） | 20 | 19 | 22 | 20 | 22 | 20 | 21 | 21 | 20 | 19 | 19 | 22 | 245 |

ソレイユ

基本目標及び計画

総括

①実践の充実<生活/労働/健康管理/環境など>

文責：山河 正裕

(1)各事業所において感染状況の情報提供のあり方や方法、そして認識などに違いが生じないよう、支援を徹底する。
(2)可能な限り利用希望者を受け入れられるためにも、引き続きヘルパー体制を確立すると同時に、他事業所との連携を深化させる。
(3)ニーズの変化に即応するため、支援実施後の見直しを的確におこない、円滑なケアマネジメントを通して利用者の地域生活を支える。

(1)利用者及びヘルパー自身はもちろん、その家族やホームなどの同居人及び職員に感染などが確認されたい、昨年度より迅速に対策を協議し、臨機応変に対応することができた。
(2)ヘルパー不足解消のための十分な支援体制を構築することができなかったが、新規利用希望者については、他事業所との連携により支援につなげることができた。
(3)支援計画の変更の際には、ヘルパーと連携しながらニーズに応じた柔軟な対応とともに、利用者の日々の変化や気づきを事業所内で共有し、今後の支援の充実に生かすことができた。

②権利保障<権利擁護/事故報告書/ひやりハット報告書/苦情・相談報告書など>

文責：山河 正裕

(1)今後は個人情報の確保に十分留意しながら、アプリやライン機能を有効活用し、日々の記録を十分に生かしながら、きめ細やかな支援につなげる。
(2)支援の中で課題になっている事象を明らかにするとともに、効果的な成果についても十分に分析し、サービスの向上はもちろんヘルパーのやりがい確保する。
(3)全職員で各種マニュアルを再確認し、支援中の事故などを極力減少させるよう、より一層ヘルパー間の連携を進める。

(1)的確な情報共有、業務の負担軽減などを目的としたICTの導入に関しては、メリット・デメリットを熟考しながら、現場のヘルパーの忌避感も引き続き考慮する。なお、支援情報が簡素化しないよう注意しながら、可能な範囲で記述項目をチェック項目に変更して記録用紙を整理した。
(2)報連相の徹底に一部不備があり、情報共有ができなかった結果、ヘルパー間で認識のずれが生じる場面があった。より一層の円滑で正確な情報発信が課題。
(3)昨年度と比較して事故などは減少したが、さらなる安全な支援の提供のため、予見可能性事象も含め引き続き適切な連携体制を模索する。

③専門性の向上と人材育成

文責：山河 正裕

(1)必要かつ的確な情報交換のためにも、感染状況に影響されないZoomなどを活用した研修の開催も検討しながら、形式的な研修にならないためにも、引き続き対面研修の方法も探っていく。
(2)利用者のニーズが多様化する中、支援のマンネリ化を防ぎ、より良い支援の質の向上を目指して、外部機関が開催する様々な研修の参加を呼びかけると同時に、事業所としてスキルアップをバックアップする。

(1)感染対策を徹底しながら2年ぶりに対面での研修、情報交換の場を設定した。日程的な調整などで全員参加には至らなかったが、日々の支援の課題から地域における他法人・事業所との連携など、対面ならではの多面的な研修、情報交換をおこなえることができた。
(2)他法人の事業所と兼務しているヘルパーが多いため、平日・休日を通しての外部研修への参加調整が困難であった。特に、重点研修として同行援護従事者養成研修や重度訪問介護従事者養成研修に加えて、今年度は、大阪府主催「居宅介護初任者（障がい者ホームヘルパー）研修」の参加を推奨していたが、勤務の代替が難しい状況に加えて、感染者が単発的に発生し、予定していた研修計画を実施できなかった。

ソレイユ

基本目標及び計画

総括

④事業展開の実施・民主的経営

文責：山河 正裕

(1)ヘルパーの増員を実施することができたが、平均年齢は60歳台となり、現在支援している利用者の継続的かつ安定的な支援の提供のためにも、引き続きハローワークなどを活用しながら若年層のヘルパーの増員を目指す。
(2)受講時の勤務扱いや受講費用の負担などの支援策などは維持継続し、感染状況を考慮しながら従業者によって支援の偏重がないよう取り組んでいく。

(1)今年度は、1名のヘルパーが退職したため、ハローワークなどを通して求人募集をおこなったが、欠員の補充、そして目標であった、さらなるヘルパーの増員を達成することができなかった。
(2)今年度の受講該当者はなかったが、安定かつ継続的な支援を確保するとともに、支援の質の向上を推進するためにも、スキルアップなどのための受講支援は今後も継続する。

⑤障害者運動の推進・恒久平和への取り組み

文責：山河 正裕

工房「羅針盤」の取り組みと並行して、署名活動や研修などの参加をヘルパーにも積極的に呼びかける。

法人理念の理解を深めながら各種イベントの開催や署名活動の協力要請をおこない、日々の支援とあわせて可能な範囲で啓発を進め、取り組むことができた。

⑥その他（新型コロナウイルスに関すること）

文責：山河 正裕

感染状況の改善が見通せない中、利用者ならびにヘルパーの命を最優先に守るため、引き続き感染症対策の徹底と必要に応じて支援の在り方を見直していく。また、支援のキャンセルが生じた場合は、安否確認を随時実施してフォローアップに取り組む。

政府からの行動制限もなく、また、感染者などが確認された場合もその後の対応は事業所任せに移行している中、利用者の心身の状況や環境変化などに応じた適切な支援を、ヘルパー間の協力で取り組んできた。しかし、担当ヘルパーが感染したことによって代替者が配置できず、事業所から支援の中止または延期をお願いしなければならない事案が発生した。

【利用者の状況】（2023年3月末現在）

| 年齢（人） | | | | | | | |
|-------|-------|------|------|------|------|-------|----|
| | 20歳未満 | 20歳代 | 30歳代 | 40歳代 | 50歳代 | 60歳以上 | 合計 |
| 男 | 0 | 0 | 2 | 5 | 4 | 0 | 11 |
| 女 | 0 | 0 | 2 | 2 | 2 | 0 | 6 |
| 計 | 0 | 0 | 4 | 7 | 6 | 0 | 17 |

| 障害支援区分（人） | | | | | | | |
|-----------|-----|-----|-----|-----|-----|------------|----|
| 区分6 | 区分5 | 区分4 | 区分3 | 区分2 | 区分1 | 非該当 未判定 | 合計 |
| 5 | 3 | 3 | 4 | 2 | 0 | 0 | 17 |

| 身体障害者手帳所持者（人） | | | | | | |
|---------------|-----------|------------------------|----------|------------|----------|----|
| | 肢体 不自由 | 音声・言語・ そしゃく機能 障害 | 視覚 障害 | 内部機能 障害 | 聴力 障害 | 合計 |
| 1級 | | | | | | 0 |
| 2級 | 1 | | | | | 1 |
| 3級 | | | 1 | | | 1 |
| 4級 | | | 1 | | | 1 |
| 5級 | | | 1 | | | 1 |
| 6級 | | | | | | 0 |
| 計 | 1 | 0 | 3 | 0 | 0 | 4 |

| 療育手帳所持者（人） | | | | 精神保健福祉手帳所持者（人） | | | | 難病指定（人） | | |
|------------|----|----|----|----------------|----|----|----|---------|----|----|
| | 男性 | 女性 | 合計 | | 男性 | 女性 | 合計 | 男性 | 女性 | 合計 |
| A | 5 | 2 | 7 | 1級 | 1 | | 1 | 0 | 0 | 0 |
| B1 | 2 | 2 | 4 | 2級 | 1 | 1 | 2 | | | |
| B2 | 1 | | 1 | 3級 | 1 | 1 | 2 | | | |
| 合計 | 8 | 4 | 12 | 合計 | 3 | 2 | 5 | | | |

【職員の状況】（2023年3月末現在）

常勤職員 1名
非常勤職員 10名

相談支援センターきらら

基本目標及び計画

総括

①実践の充実<サービス等の利用・健康/医療・不安解消/情緒安定・教育・家族/人間関係・就労>

文責：坂田 沙知子

(1) 家族や関係機関とともに連携を図り、当事者を中心にしたより良いチーム支援を行えるよう努める。
 (2) 法人内外問わず、関係機関からの相談にも対応し、当事者、家族の希望する生活の実現につなげていく。
 (3) 医療や専門機関と連携し、適切な助言やサポートを受けて、当事者の健康維持と障害や病状の理解につなげていく。

(1) 基幹相談支援センター（以下、基幹）になり、行政や他の専門機関から見守り支援を求められることが増えた。どこの支援機関にもつながっていないケースや、当事者に会うことができず、直接意向を伺うことが難しいケースがあった。定期的に安否確認で訪問しているケースもある。家族や過去につながっていた支援者からの聞き取りをしながら、周囲の困り事への場当たりの支援ではなく、当事者中心の支援がおこなえるように進めていきたい。
 (2) 指定相談事業所から一般相談で関わっていたケースの引継ぎをおこなった。法人内からは家族との関わりについてや家族の状況変化に伴う相談があり、グループホームなどにつながることがあった。
 (3) 関係機関で全体像を共有することを目的に、病院からの呼びかけでカンファレンスに参加した。入退院を繰り返している方については、相談側から医療に投げかけてカンファレンスを開催して環境調整をしてきた。また、今年度は訪問リハビリにつながりケースが複数あった。訪問時に医療機関に受診が必要かどうかを判断する場面が多くあり、課題と感じている。

②権利保障<権利擁護/事故報告書/ひやりハット報告書/苦情・相談報告書など>

文責：清 眞司郎

(1) ひやりハット、事故・苦情・相談を報告・共有し、再発防止のため、再分析に努める。心にゆとりを持ち、業務には平常心で取り組めるようにしていく。
 (2) 常に当事者の立場に立ち、当事者自らが意思決定できるようにサポートしていく。

(1) 週1回の職員会議のレジュメにひやり・事故・苦情報告などを記載し、会議の中で意識して取り上げることで、ひやりハットの件数が増えた。事故・苦情は減っている。今後は内容を分析し、事故・苦情につながらないように対策をしていく。引き続き心にゆとりを持ち、業務に取り組めるように心がけていく。
 (2) 常に当事者の立場に立ちながら、ケースの共有・検討をおこなってきて、複数の相談支援専門員（以下、相談員）がいることで、第三者の視点で違った意見を得ることができた。障害特性によって本人の意向を汲み取ることができず、家族・支援者の意向だけで進めないように気をつけていかなければならない。また、通学支援に関しては、家族・学校からの相談が大半であった。子どもたちがどのような学校生活を送りたいのか、子どもたちの声・成長を感じ取れるように努めていきたい。

③専門性の向上と人材育成

文責：高橋 敦子

(1) 行政、各種団体等による研修には積極的に参加し、受講した職員だけでとどめず、職員会議で研修内容の共有を図り、職員全体で支援のスキル向上に努めていく。
 (2) 職員間でケースの状況・課題の共有を図り、支援の偏りや担当者が一人で抱え込むことがないように心がけ、より良い支援となるよう努めていく。

(1) 千里地域包括支援センターを招いて「認知症サポーター研修」や、少路障害者相談支援センターと合同で人権啓発研修に取り組んだ。また、職員それぞれが関心を持って受講した研修は、職員会議で共有をおこなった。研修の振り返りや職員間で内容を深める機会につながった。今後は、事業所全体で深めたいテーマなど事前に話し合い、事業所内の研修を積極的に取り組んでいきたい。
 (2) 週1回職員会議を開き、担当ケースで直面している課題などを共有し、支援の方向性を全体で協議してきた。相談支援専門員として支援に悩むことは多いが、抱え込みにならないように職員一人ひとりが意識をしてきた。共有していく中で気づきにつながることもあった。また、必要に応じて基幹アドバイザー事業でケースを取り上げてもらい、弁護士や学識経験者、他の基幹とともに、広い視野からケースを捉えることができた。

相談支援センターきらら

基本目標及び計画

総括

④事業展開の実施・民主的経営

文責：高橋 敦子

(1) ケースを通し、相談支援の役割を発信していき、障害分野に限らず、介護・医療・教育など、地域で支援のつながりを広げていけるよう進めていく。
(2) 豊中市域での相談支援体制の発展・充実のための連携強化や、個別ケースの検討などによる支援スキルの向上に努めていく。さらには、地域の課題の共有や抽出も図っていく。
(3) 各事業所と連携し、法人利用者・家族の地域生活をサポートしていけるよう努めていく。

(1) 今年度より豊中市相談支援体制が再編され、人員も4名配置になった。基幹（北東部）・委託（北東部）・指定特定の役割を担っている。子ども・高齢・生活困窮との複合的な課題や、多様なニーズへの対応が求められてきている。同じ生活圏域で他分野の関係機関との関わりも増加している。当事者・家族の安心できる生活が保障していけるように、他分野の関係機関ともチーム支援を進めていきたい。
(2) 他分野の関係機関との関わりが増えた一方で、地域の相談支援事業所との関わりは、各相談支援研修で必須となっているインターバル研修の受け入れ程度に留まっていた。基幹の役割でもある、相談支援体制の発展・充実の連携強化となるような働きかけを地域で積極的に努めていく。
(3) 法人利用者・家族・職員から相談を受けている。日々の不安の傾聴、日中活動以外のサービス利用調整、必要に応じた制度の活用・専門機関の紹介、家族支援など、内容は様々である。今後も利用者にとってより良い支援を進めていくために、事業所間で連携を図っていきたい。

⑤障害者運動の推進・恒久平和への取り組み

文責：天野 竜二

日常生活で疑問に感じたことを大切に、各関係機関と連携し情勢や制度についても理解を深めていき、必要に応じて社会資源の改善につなげていけるよう努める。

障害のある児童の通学支援制度が4月から施行された。当事者・家族の声をもとに自立支援協議会で議論して作られた制度である。基幹になり通学支援の利用希望が複数あった。課題はあるものの、当事者・家族からの喜びの声があり、制度づくりの意義を実感した。次年度も社会資源の改善に向けて、当事者・家族のニーズを拾い上げていきたい。
基幹として、行政・他機関と制度の現状や改善について話し合う機会が増えた。日々の相談の中で把握している実態を伝え、情報共有・意見交換をおこなった。関係機関が連携する必要性を感じている。情勢や制度に理解を深め、他機関とのつながりを大事にしていきたい。

⑥その他（コロナ禍・緊急時の対応）

文責：天野 竜二

(1) 当事者、家族に不安を与えないように、感染防止対策を徹底する。
(2) 緊急時の動きを想定し、支援機関との連絡調整と必要な情報の確認をしておき、スムーズに対応できるように準備しておく。緊急時の対や救急車の要請は、統一した手順で進めていく。

(1) 事務所内での換気・消毒、訪問前後の手洗い・消毒をおこなった。対象者それぞれの体調や気持ちを考慮し、面談の仕方を工夫した。
(2) 生活力や健康面に課題のある一人暮らしの方の見守り訪問をしている。関係機関が訪問した時に急変していることがあった。会議で振り返りをおこない、状況に応じた対応を話し合った。また、令和3年に災害対策基本法が改正され、個別避難計画作成が努力義務になった。計画は、避難支援協力者などに平常時から情報を提供することで、災害発生時に支援の手を差し伸べてもらいやすくするもので、令和4年から市町村が主体となって取り組むことになった。今年度、行政から相談員対象の説明会が開かれた。相談員として災害時にどういった支援ができるか検討を進めていきたい。

【利用者の状況】（2023年3月末現在）

【計画相談】（障害児相談支援事業、障害者相談支援事業） 18歳以上108名 18歳未満3名

| 年齢（人） | | | | | | | |
|-------|-------|------|------|------|------|-------|-----|
| | 20歳未満 | 20歳代 | 30歳代 | 40歳代 | 50歳代 | 60歳以上 | 合計 |
| 男 | 3 | 12 | 7 | 14 | 25 | 10 | 71 |
| 女 | 0 | 7 | 4 | 6 | 17 | 6 | 40 |
| 計 | 3 | 19 | 11 | 20 | 42 | 16 | 111 |

| 障害支援区分（人） | | | | | | | |
|-----------|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|
| 区分6 | 区分5 | 区分4 | 区分3 | 区分2 | 区分1 | 区分なし | 合計 |
| 41 | 22 | 16 | 13 | 7 | 1 | 11 | 111 |

| 身体障害者手帳所持者（人） | | | | | | |
|---------------|-------|----------------|------|--------|------|----|
| | 肢体不自由 | 音声・言語・そしゃく機能障害 | 視覚障害 | 内部機能障害 | 聴力障害 | 合計 |
| 1級 | 18 | 0 | 2 | 2 | 0 | 22 |
| 2級 | 10 | 1 | 1 | 0 | 0 | 12 |
| 3級 | 3 | 4 | 0 | 0 | 0 | 7 |
| 4級 | 2 | 2 | 0 | 1 | 0 | 5 |
| 5級 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| 6級 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 計 | 38 | 7 | 3 | 3 | 0 | 51 |

| 療育手帳所持者（人） | | | | 精神保健福祉手帳所持者（人） | | | 難病指定（人） | | | |
|------------|----|----|----|----------------|----|----|---------|----|----|----|
| | 男性 | 女性 | 合計 | | 男性 | 女性 | 合計 | 男性 | 女性 | 合計 |
| A | 35 | 15 | 50 | 1級 | 1 | 2 | 3 | 5 | 4 | 9 |
| B1 | 4 | 3 | 7 | 2級 | 7 | 9 | 16 | | | |
| B2 | 6 | 1 | 7 | 3級 | 4 | 1 | 5 | | | |
| 合計 | 45 | 19 | 64 | 合計 | 12 | 12 | 24 | | | |

指定相談支援事業所に移行 0名、ケアプランに移行 0名、計画終了3名、他市町村 19名

【基本相談】 144名

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|-----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 基本相談(延件数) | 179 | 175 | 202 | 183 | 212 | 150 | 178 | 176 | 180 | 177 | 341 | 337 |
| 内、新規相談件数 | 10 | 9 | 14 | 7 | 4 | 2 | 5 | 1 | 5 | 4 | 4 | 4 |

【職員の状況】（2023年3月末現在）

常勤職員 4名

基本相談（年間合計） 2490

内、新規相談（年間合計） 69

グループホーム

基本目標及び計画

総括

①実践の充実<生活/労働/健康管理/環境など>

文責：黒川 昇宏

(1)日常生活に支障がないよう考慮し、必要に応じて改修や備品購入をしていく。
 (2)バイタルチェックや服薬管理、医療機関等と連携して、体調管理をしていく。
 (3)摂取量の調整や刻みなど、個々に合わせた食事を提供する。

(1)やすらぎの家、らしんばんの家は開所から10年が経ち、建具や電化製品、調理器具などの経年劣化に伴い、修繕や買い替えをした(時期を考慮して、やすらぎの家・らしんばんの家：居室のエアコンの入れ替え/やすらぎの家：洗濯機の買い替え)。
 (2)日々のバイタルチェックなどで利用者の状況を把握し、作業所と連携しながら適宜ホームでの待機、通院対応をおこなった。定期通院も必要に応じて同行し、服薬変更などを業務日誌や連絡ノートを通じて情報共有し、健康管理に留意した。また、障害の進行や高齢化に伴う機能低下が見られる方もいるため、日々の状態観察に努めていく。
 (3)健康診断や血液検査結果、医師からの意見を考慮し、摂取量の調整と一口大カット・刻みなどの個別対応をした。12月には、らしんばんの家の利用者が誤嚥することがあり、救急処置・搬送対応をおこなった。

②権利保障<権利擁護/事故報告書/ひやりハット報告書/苦情・相談報告書など>

文責：磯島 貞幸

(1)報告書は早めの作成を心がけ、職員会議などで分析をおこない、対応や解決策を情報共有し、再発防止に努める。
 (2)事故やひやりハットなどの事例を通して、教訓や対策について情報共有をおこない、統一した支援につなげていく。
 (3)虐待防止についての研修をおこなう。

(1)(2)事例発生時には状況把握をおこない、他のホーム・職員に連絡ノートなどで周知をおこない、再発防止に努めた。
 (3)一堂に介しての機会はないが、事例を通して個別に話し合う場を設けるようにした。

③専門性の向上と人材育成

文責：荒内 玲

(1)職員一人一人に合わせた伝え方を工夫し、コミュニケーションを図る。
 (2)支援計画などの各種書類の管理を、お互いにチェックやフォローできるように表を作成するなどの工夫をする。また、定例会議などで進捗状況を確認し、見通しを立てて書類の作成、整理をしていく。
 (3)各種研修に参加してスキルアップしていく。

(1)利用者が安心して安全に暮らすことができるように、各ホームの状況をその都度情報共有し、必要な伝達を滞りなくおこなうことができた。
 (2)定例会議の際に各種書類の管理状況を確認したが、ホーム勤務や庶務などの影響で計画通りにおこなうことはできなかった。常勤職員の体制変更を受けて、年度後半に事務業務の役割分担を見直し、改善を図っている。
 (3)経験年数に応じて必要な研修に参加した。

グループホーム

基本目標及び計画

総括

④事業展開の実施・民主的経営

文責：中村 元英

(1) 介護者の急な入院などで緊急的に短期入所の利用が必要な場合は、日中事業所と連携して利用者の受け入れをしていく。
(2) 安定した事業運営をしていくためにも、日中事業所との兼務など、多様な働き方を模索していく。

(1) 緊急時の対応はなかった。
(2) 7月から日中事業所より男性職員1名が異動（当初は作業所と兼務）、ひだまりの家の夜勤職員の退職に伴い、日中事業所の職員に週1回夜勤に入ってもらった（1月まで）。職員の勤務時間や日数の変更などによる欠員に伴い、夕方の支援に入ってもらった。また、コロナウイルス感染症の対応（職員が罹患して欠勤／利用者が罹患して日中支援の対応）時にも、日中事業所や相談支援事業所に応援に入ってもらった。しかし、日常の勤務シフトの作成や日々の職員欠勤の対応に追われ、その場しのぎの応援依頼で、兼務職員の働き方など、具体的な提案や検討は年度末になった。急な欠勤の対応など、公休日に出勤になることが時々あり、勤務シフトの都合上、振替休日の取得が難しい月もあった。

⑤障害者運動の推進・恒久平和への取り組み

文責：荒内 玲

「通院等介助の利用は慢性疾患に限り、月2回」「特殊寝台はホーム入居者は対象外」など、高齢化が進む中で、今後ますます必要となってくる福祉サービスが利用できないことがあるので、利用者の生活実態を踏まえて行政に訴えていく。

特殊寝台の申請については、行政へ個別に必要性を伝えることで給付を受けることができた（申請から3年経過）。サービスを必要としている人がスムーズに給付などを受けられない事案があることについて、法人本部の会議でも情報共有し、改めて障害者運動の必要性と問題解決の手法について確認した。

⑥その他（感染症対策／緊急時対応）

文責：黒川 昇宏

(1) 共用部でのマスク着用、食事の場所や座席・時間の変更など、引き続き感染対策に努める。
(2) 利用者の体調不良や感染症発症時などの緊急時に対応できるように、日中事業所と連携していく。

(1) リビングで空気清浄機の使用や、職員・利用者に共有部でのマスク着用を随時促した。コロナ感染者が出た際はこまめに消毒し、居室での摂食や共有部での食事時間を分けるなどの対応を図った。
(2) コロナ感染対応に追われる一年となった。令和4年3月にらしんばんの家、8月にひだまりの家、12月には、らしんばんの家・やすらぎの家・きららの家とほぼ同時期にコロナ感染があり、常勤ホーム職員だけでは対応が困難だったため、日中事業所からの応援と特定の職員で支援をおこなった。感染拡大は一定抑えることができたが、支援に入った職員複数名に感染することがあった。12月末にひだまりの家で職員の感染が続き、日中事業所だけでなく相談支援事業所へも応援を要請した。今後も感染時対応の体制調整を状況に応じておこなう必要がある。

【利用者の状況】（2023年3月末現在）

| 年齢（人） | | | | | | | |
|-------|-------|------|------|------|------|-------|----|
| | 20歳未満 | 20歳代 | 30歳代 | 40歳代 | 50歳代 | 60歳以上 | 合計 |
| 男 | | | 2 | 6 | 10 | 2 | 20 |
| 女 | | 2 | 1 | | 2 | 1 | 6 |
| 計 | 0 | 2 | 3 | 6 | 12 | 3 | 26 |

| 障害支援区分（人） | | | | | | | |
|-----------|-----|-----|-----|-----|-----|------------|----|
| 区分6 | 区分5 | 区分4 | 区分3 | 区分2 | 区分1 | 非該当 未判定 | 合計 |
| 17 | 8 | 1 | | | | | 26 |

| 身体障害者手帳所持者（人） | | | | | | |
|---------------|-----------|--------------------|----------|------------|----------|----|
| | 肢体 不自由 | 音声・言語・そ しゃく機能障害 | 視覚 障害 | 内部機能 障害 | 聴力 障害 | 合計 |
| 1級 | 5 | | | | | 5 |
| 3級 | 1 | 1 | | | | 2 |
| 4級 | 1 | 3 | | | | 4 |
| 5級 | 1 | | | | | 1 |
| 6級 | | | | | | 0 |
| 計 | 8 | 4 | 0 | 0 | 0 | 12 |

| 療育手帳所持者（人） | | | | 精神保健福祉手帳所持者（人） | | | | 難病指定（人） | | |
|------------|----|----|----|----------------|----|----|----|---------|----|----|
| | 男性 | 女性 | 合計 | | 男性 | 女性 | 合計 | 男性 | 女性 | 合計 |
| A | 11 | 4 | 15 | 1級 | 2 | 1 | 3 | | | 0 |
| B1 | | | 0 | 2級 | 3 | 1 | 4 | | | |
| B2 | | | 0 | 3級 | | | 0 | | | |
| 合計 | 11 | 4 | 15 | 合計 | 5 | 2 | 7 | | | |

【職員の状況】（2022年3月末現在）

常勤職員 3名
非常勤職員 33名

災害対策委員会

【はじめに】

一昨年度に作成した「新型コロナウイルス対策マニュアル」をベースに感染症対策に取り組んできた。今年度も法人内において罹患者は確認されたが、重篤化するケースはなかった。引き続き感染予防や感染後の対応、感染者・その家族への適切なケア、精神的な負担の軽減、偏見への配慮などを講じていくことが必要である。

昨今、様々な災害が発生している中、事業所において災害発生時に適切な対応をおこない、その後も利用者に必要なサービスを継続的に提供できる体制を構築するために、どのような取り組みが必要なのか法人全体で考えていくことが重要である。

【今年度に取り組んできたこと】

新型コロナウイルス対策の取り組みを各事業所より報告していただき、罹患者が確認された経緯や対応、制限緩和に向けた動きなどの共有をおこなった。

また、非常食については、定期的にストックの入れ替えをおこなう必要があると考え、各事業所の在庫数を確認し、定期的なストックの入れ替えと補充のタイミングについて確認した。一方、BCPの作成については、見直しや追記が必要だと思われるため、外部の研修に参加して情報収集をおこなった。主な取り組みとしては以下の通りである。

- | | |
|---------------------|------------------------|
| • 新型コロナウイルスに係る対応の共有 | • 防災学習 |
| • BCPの作成（継続中） | ①感染症対策研修 |
| • 防災用備品の検討と購入 | ②防災体験研修 |
| • 避難訓練実施状況の共有 | ③避難行動要支援者名簿～個人情報と情報開示～ |
| • リモート会議の導入 | ④福島防災ワークショップ |
| • 災害時緊急安否確認表の更新 | |

【まとめ】

国内で新型コロナウイルスの感染が確認されてから約3年が経過したが、今年度、大阪府では緊急事態宣言の発令はなかったものの、コロナの変異株の置き換わりの進行などにより、引き続き収束の見えない状況にある。さらに昨年度とは違い、感染しても一般の風邪と同様の症状、中には無症状の方もおられるため、感染しているかの区別がつきにくく、あとでおこなったPCR検査で陽性であることが判明し、初期対応が遅れてしまうケースもあった。引き続きの感染対策としては、換気や手指消毒をこまめにおこなうほか、利用者の体調の観察や聞き取りをおこなっていく必要がある。また、ワクチン接種を希望されても手続きなどに困っている方が多いため、サポートも継続していく必要がある。

昨今では、頻繁に台風や地震などによる自然災害が発生しており、さらには南海トラフなどの大規模な地震が危惧されている。いつ大きな災害に見舞われるか分からないため、法人内だけでなく地域との連携を大切に、有事の際に助け合える関係づくりを日頃からおこなっていく必要がある。

引き続き利用者の安全や安心に配慮し、緊急時の職員体制や役割について確認する機会を設け、あわせて防災備品の充実を図っていくことが重要である。

研修委員会

年度初めの段階では、コロナ禍で対面での新人研修は難しいと考えていたが、年度途中でコロナの感染状況が減少し、法人内で対面の研修や会議ができるようになった。研修委員と講師となる管理者で相談し、約半数の研修を対面で実施できた。「話しやすく質問がしやすい」との感想なども多く、改めて対面での研修の良さを実感した。また、全体研修についても対面で開催することができた。研修委員会の中でも「風通しの良い職場づくり」について学びたいという声が上がったのと、大阪障害者センターのメンタルヘルス検討委員会からも提案があり、「ストレスチェック制度の実施にあたって」をテーマに話をしていただき、職員同士での関わり方やストレスチェックの説明、それをどのように活用するかなど、様々なことを聞くことができた。

新人職員も増えてきている中、日々の実践に生かすことができ、より良い支援をしていくためにも研修の機会を今後も確保していきたい。

| | 開催日時 | 内容 | 参加人数 |
|------|------|---------------------|------|
| 新人研修 | 5/12 | 法人理念研修 (Zoom) | 7名 |
| | 5/19 | 障害福祉サービスについて (Zoom) | 5名 |
| | 5/26 | 発達保障論 (Zoom) | 7名 |
| | 6/2 | 虐待防止研修 (Zoom) | 6名 |
| | 6/9 | 職業倫理 (対面) | 7名 |
| | 6/16 | 障害者の歴史 (対面) | 6名 |
| | 6/23 | 社会保障論 (Zoom) | 7名 |
| | 6/30 | 個別支援計画について (対面) | 6名 |
| | 7/7 | 中長期計画 (対面) | 8名 |
| | 7/14 | グループホームについて (Zoom) | 7名 |

| | |
|-----|---|
| 法人内 | <ul style="list-style-type: none"> メンタルヘルス学習会 (対面) 「ストレスチェック制度の実施にあたって」：峰島厚 氏 |
|-----|---|

| | |
|------|--|
| 事業所内 | <ul style="list-style-type: none"> 新人職員向け研修 OJT 正職員を対象としたグループワーク 非常勤及び新人職員向け研修 ヘルパー研修 |
|------|--|

| | | | |
|-----|---|---|---|
| その他 | <ul style="list-style-type: none"> きょうされん (オンライン専門講座/全国大会) 大阪障害者センター <ul style="list-style-type: none"> 「障害者支援基礎講座」「ICFファシリテーター研修」 「グループリーダー研修」「福祉施設新人職員研修」 「医学的基礎講座」「管理者セミナー」 「職場内のコミュニケーションを考える講習会」 など 社会福祉経営全国会議 (各種オンライン研修) JDの各種セミナー (障害者権利条約など) 自閉スペクトラム症 (オンライン講座) | <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナを含む感染症対策研修 平和学習会 人権研修 (ハラスメント研修など) 虐待防止研修 優生保護法や生活保護に関する研修 各種養成研修 (高次脳機能障害支援者/強度行動障害者支援者) 相談支援従事者初任者研修 | <ul style="list-style-type: none"> 防災研修 (BCPを含む) 社会情勢 性に関すること メンタルヘルス関連 |
|-----|---|---|---|

その他多数

虐待防止委員会

今年度も新型コロナの影響で全ての会議をオンラインで実施した。虐待事例を使つてのグループワークや、各事業所の報告書類の情報共有、「障害者虐待防止の更なる推進」「身体拘束等の適正化の推進」に向け、虐待防止研修と身体拘束等の適正化のための研修を実施した。

各報告書については、前年度よりも件数が増えた事業所もあったが、全体としてひやりハットが減っている。減った要因としては様々であるが、業務多忙の月に減っていたり、経験年数の浅い職員への周知が不十分であったり、経験年数を問わずひやりハットであることに気づけていなかったりしていたと推測される。また、年度初めには、ひやりハットを積極的に出せる取り組みを考えたが、その取り組みも十分におこなえていなかった。事故報告についても同様に事業所によって増減はあるが、全体としては減っており、事故に至る前に気づくことができ、ひやりハットの教訓が生かされていると思われる。ただ、同じような事案が起きている事業所もあるため、教訓化や対策の振り返り、見直しは必要となってくる。

今年度も事例検討を複数回おこない、グループワークで様々な意見を聞く中で日々の支援を見直す機会となった。虐待防止チェックリストは取り組み始めて3年弱となるが、備考欄の記載内容をもとに議論し、支援を振り返る貴重な機会にもなっており、記載された不適切な支援がなくなった事業所もある。今後も虐待防止チェックリストを有効活用し、日々、支援を振り返る中で不適切な支援を減らすことが重要である。また、事業所内で日頃から不適切な支援の議論ができるように、職員同士で気になったことなどを言い合える工夫も必要となる。

ネットワークポポロについては、前年度と同様に事務局会議はオンライン開催となったが、施設訪問は、感染状況に注意しながら訪問やオンラインでの面談となった。実際に他事業所を訪問することができ、そこでの取り組みや課題を知ることができ、自身の事業所内で配慮すべきところや注意すべきところを知ることができた。

事業所によっては、学習会のような形で障害特性や支援についての理解を深める場を設けたところもある。委員会内では、不定期ではあったが、障害者権利条約や虐待に関する情報を共有してきた。ただ、前年度の総括で課題としてあがっていた内容が、十分に実施や議論できなかつた部分もあるため、改めてその必要性や重要性を考え、次年度の取り組みにつなげていく必要がある。その上で利用者の権利が侵害されないように、不適切な支援や虐待について委員会内で議論し、事業所内での議論につながるよう発信をしていきたい。

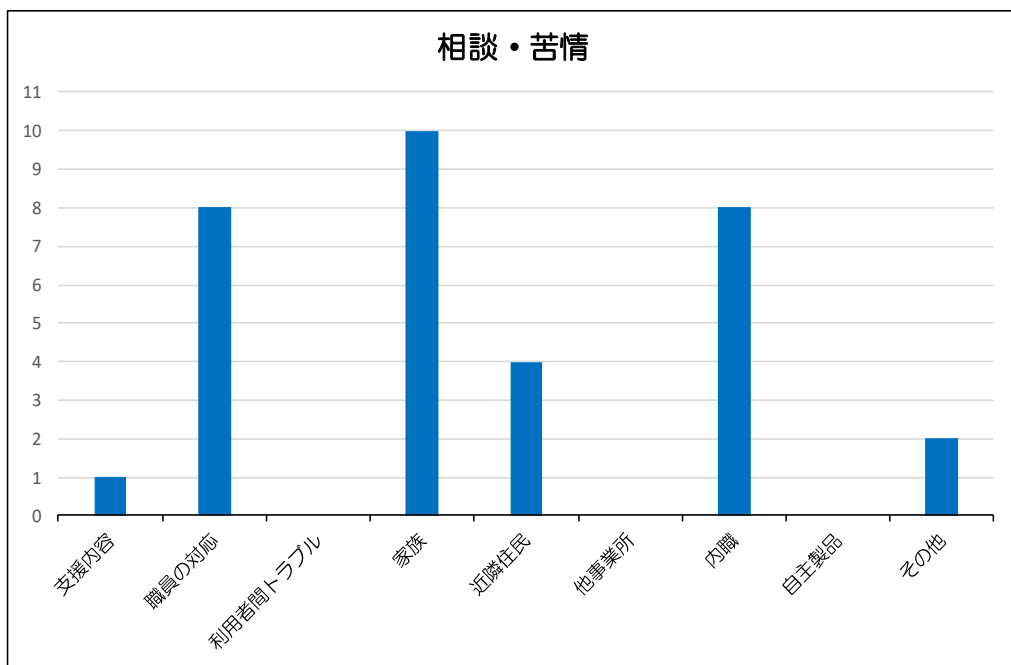
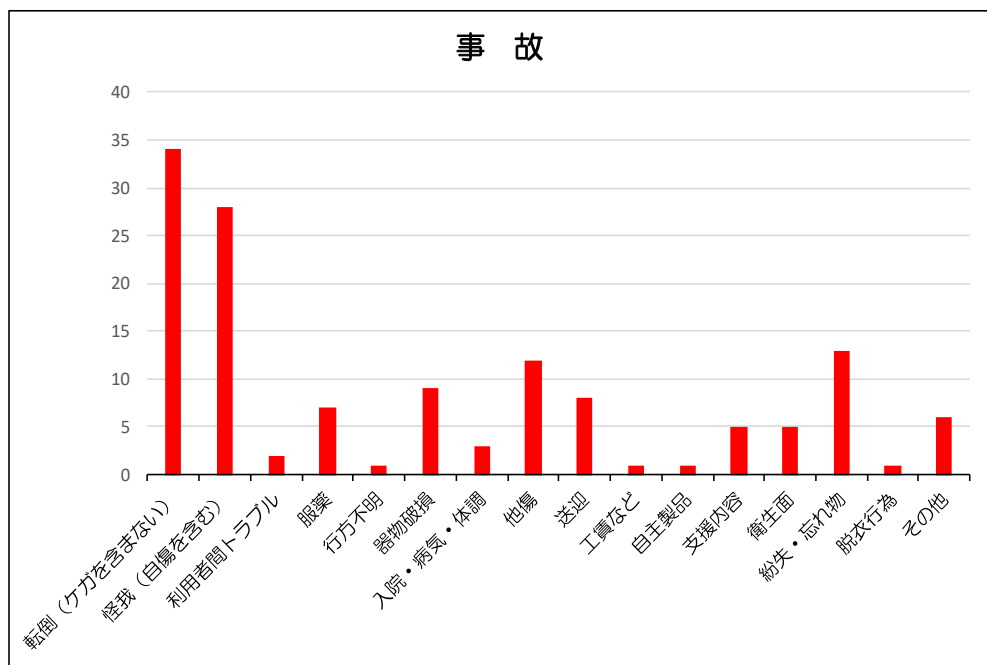
2022年度（令和4年度）各報告書の年間報告件数

2022年（令和4年）2月1日～2023年（令和5年）1月31日

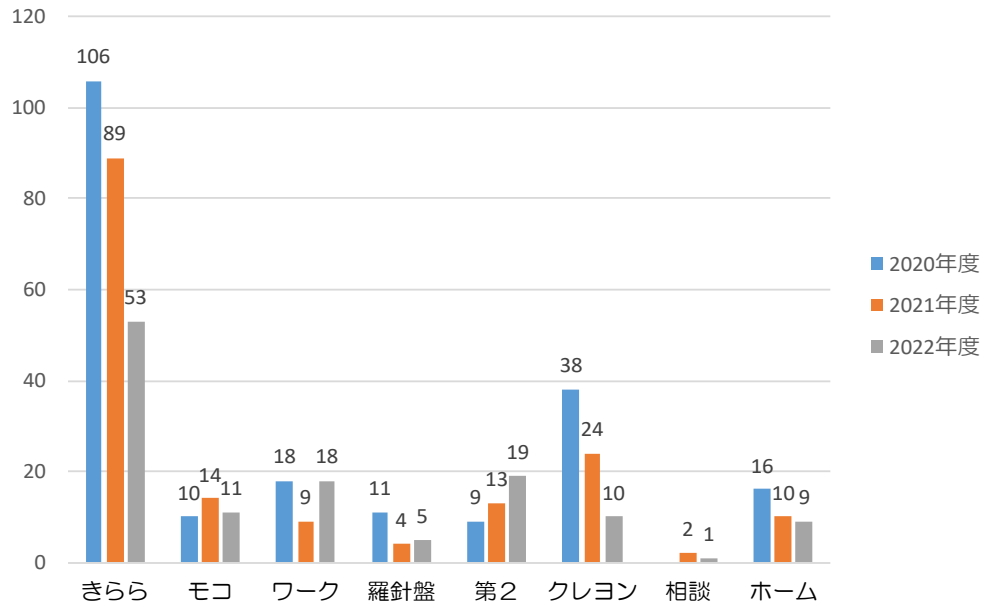
| 事故 | きらら | モコ | ワーク | 羅針盤 | 第2 | クレヨン | 相談 | ホーム | 合計 |
|-------------|-----------|-----------|-----------|----------|-----------|-----------|----------|-----------|--------------|
| 転倒（ケガを含まない） | 13 | 10 | 2 | 1 | 2 | 4 | | 2 | 34 件 |
| 怪我（自傷を含む） | 9 | 2 | 2 | 3 | 6 | 2 | | 4 | 28 件 |
| 利用者間トラブル | | | 2 | | | | | | 2 件 |
| 服薬 | 1 | | | 1 | 4 | 1 | | | 7 件 |
| 行方不明 | | | | | | 1 | | | 1 件 |
| 器物破損 | | | 8 | | | 1 | | | 9 件 |
| 入院・病気・体調 | | | | | | | | 3 | 3 件 |
| 他傷 | 8 | 2 | 1 | | | 1 | | | 12 件 |
| 送迎 | 7 | | | | 1 | | | | 8 件 |
| 工賃など | | | 1 | | | | | | 1 件 |
| 自主製品 | | | | | 1 | | | | 1 件 |
| 支援内容 | 2 | | 1 | | 2 | | | | 5 件 |
| 衛生面 | 4 | 1 | | | | | | | 5 件 |
| 紛失・忘れ物 | 8 | | | | 5 | | | | 13 件 |
| 脱衣行為 | | 1 | | | | | | | 1 件 |
| その他 | 1 | | 1 | | 2 | | 1 | 1 | 6 件 |
| 合計 | 53 | 16 | 18 | 5 | 23 | 10 | 1 | 10 | 136 件 |

| 苦情・相談 | きらら | モコ | ワーク | 羅針盤 | 第2 | クレヨン | 相談 | ホーム | 合計 |
|-----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|-------------|
| 支援内容 | | | 1 | | | | | | 1 件 |
| 職員の対応 | 2 | | 2 | | 2 | | 1 | 1 | 8 件 |
| 利用者間トラブル | | | | | | | | | 0 件 |
| 家族 | 1 | | 1 | | | 3 | 4 | 1 | 10 件 |
| 近隣住民 | 1 | | | | 1 | 1 | | 1 | 4 件 |
| 他事業所 | | | | | | | | | 0 件 |
| 内職 | | 1 | 2 | 1 | | 4 | | | 8 件 |
| 自主製品 | | | | | | | | | 0 件 |
| その他 | | | | | | | | 2 | 2 件 |
| 合計 | 4 | 1 | 6 | 1 | 3 | 8 | 5 | 5 | 33 件 |

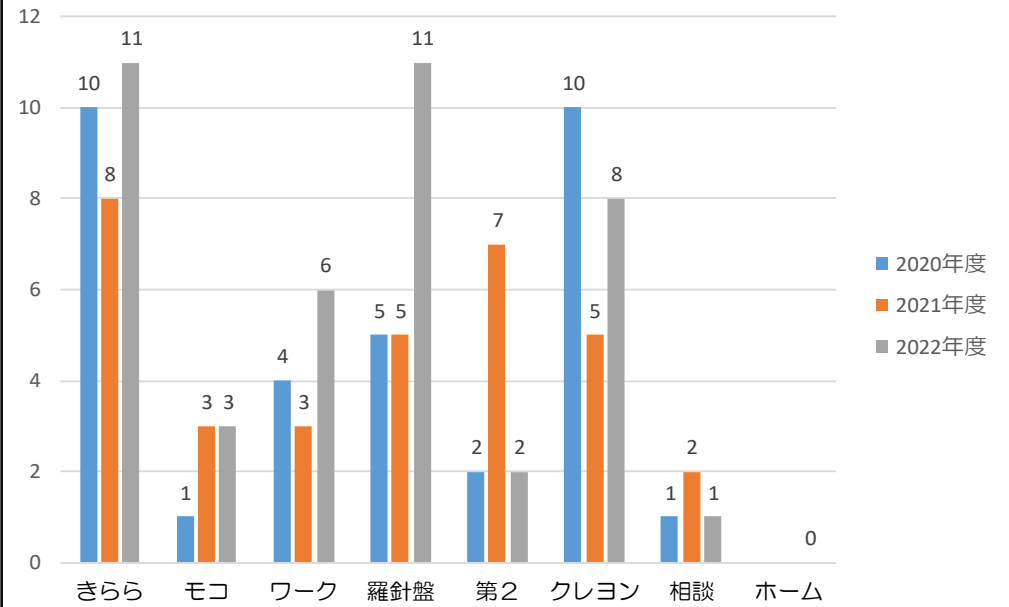
| ひやりハット | きらら | モコ | ワーク | 羅針盤 | 第2 | クレヨン | 相談 | ホーム | 合計 |
|----------|-----|-----|-----|-----|----|------|----|-----|-------|
| | 108 | 100 | 45 | 6 | 23 | 87 | 21 | 17 | 407 件 |
| 車両 | きらら | モコ | ワーク | 羅針盤 | 第2 | クレヨン | 相談 | ホーム | 合計 |
| | 11 | 3 | 6 | 11 | 2 | 8 | 1 | 0 | 42 件 |
| 内訳（確認不足） | 7 | | 6 | 11 | 2 | 7 | | | 33 件 |



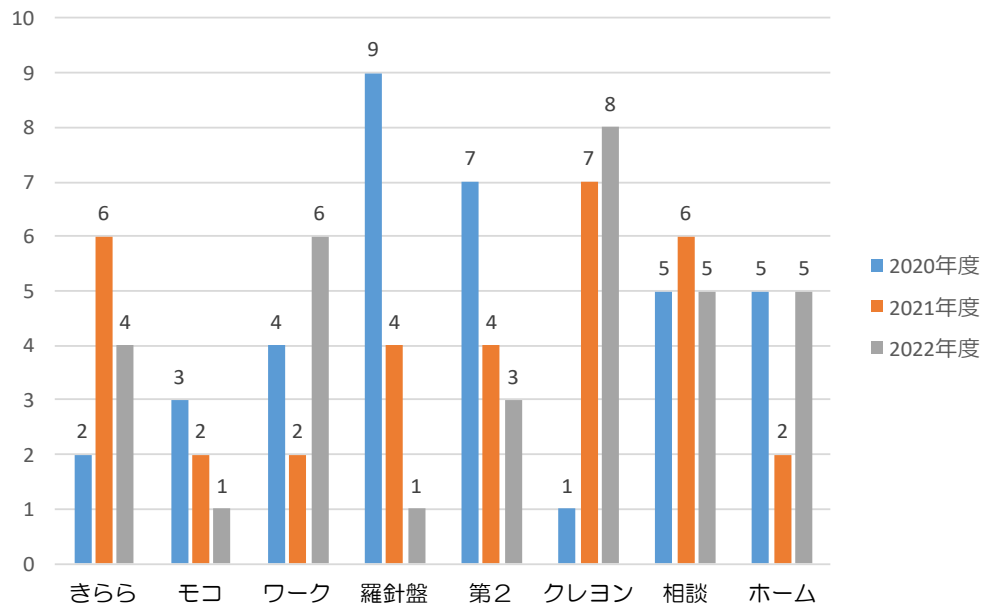
事 故



車両事故



相談・苦情



ひやりハット

